

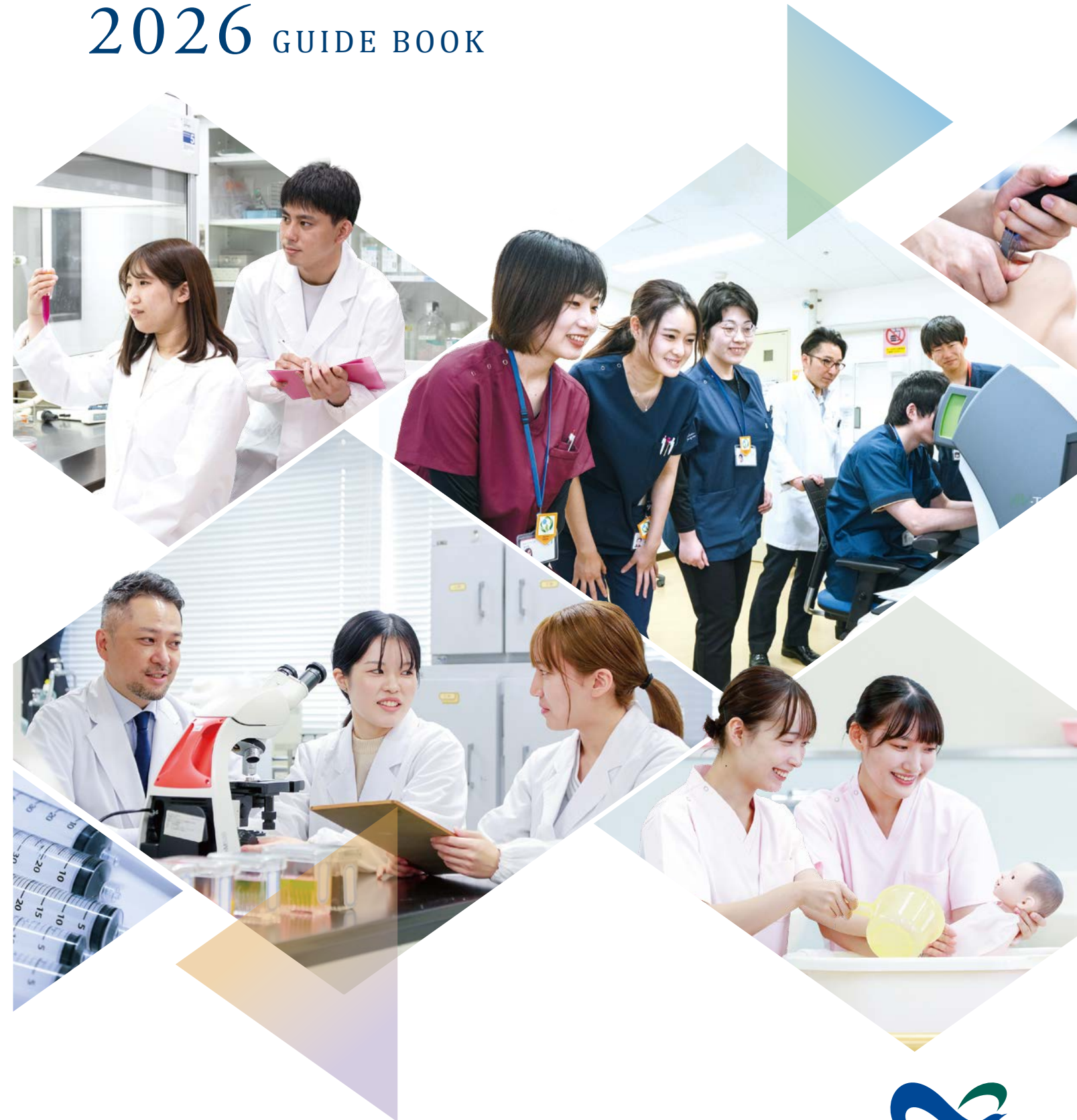
鳥取大学医学部

TOTTORI UNIVERSITY Faculty of Medicine

2026 GUIDE BOOK



鳥取大学医学部
TOTTORI UNIVERSITY
Faculty of Medicine



お問合せ窓口

鳥取大学米子地区事務部学務課

〒683-8503 鳥取県米子市西町86 TEL:0859-38-7096(学務課教育企画係)



鳥取大学医学部HP
<https://www.med.tottori-u.ac.jp/>



鳥取大学医学部附属病院HP
<https://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/>

医学科

生命科学科

保健学科 看護学専攻

保健学科 検査技術科学専攻



山陰の地で学ぶ、 先端医療

医学部理念

鳥取大学医学部は、医学科、生命科学科、保健学科がお互いに連携を取りながら、生命の尊厳を重んじるとともに創造性に富む医療人や生命科学者を養成する。

医学部の教育目標

鳥取大学医学部は山陰地方の歴史と伝統ある医学部として、21世紀にふさわしい医学、生命科学、保健学を修得し、これを実践できる人材を育成するための先進的な教育を行う。そして、限りない人間愛を涵養しながら、地域社会の課題を解決し、地域の発展に貢献するとともに、国際的に活躍できる個性輝く創造性豊かな人材の養成を目指す。

医学科

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域特性に合わせた医療の実践や最先端の医学を創造できる医師を養成する。

生命科学科

生命倫理を尊重するとともに、基礎医学と最先端の生命科学を修得し、医学とその多様な関連領域の研究者や両者の橋渡し役を担う専門的職業人を養成する。

保健学科

看護学専攻は看護学の理論と技術を修得し、人間の尊厳を守り、地域特性に合わせた看護を実践できる看護職を、検査技術科学専攻は生命倫理を尊重し、最先端のバイオサイエンスと生体・機能検査の技術をそなえた臨床検査技師を養成する。

MESSAGE

鳥取大学医学部は、第2次世界大戦終結間近の1945年7月1日、多くの関係者の献身により米子医学専門学校として設立されました。その後、米子医科大学を経て1949年に現行の鳥取大学医学部に改称され、1990年には生命科学科、1999年には保健学科が新設されたことで現在の3学科体制が整い、2025年には創立80周年を迎えます。1958年に医学研究科として設置された大学院は、学部再編に伴い名称変更や改組を重ね、2020年には『医学専攻（博士課程）』『医科学専攻（博士前期・後期課程）』『臨床心理学専攻（修士課程）』の3専攻を設置して現在に至ります。

創設以来、地域の皆様温かいご支援のもとで、医療人や研究者として必要な全人的視点と高度な専門知識・技術を兼ね備えた人材を数多く輩出してまいりました。今後も、病に苦しむ方々や社会の多様なニーズを的確に捉え、幅広い教養と倫理観、科学的根拠に基づく判断力を備えた人材の育成に努めます。同時に、これまで培ってきた伝統をさらに発展させ、教育・研究・診療・社会貢献の四本柱を有機的に結びつけ、未来の医療を担う人材を育成していきます。

鳥取大学医学部には、鳥取県のみならず全国各地や海外から多様な学生・研究者が集い、互いに切磋琢磨する学風が根付いています。最先端の基礎研究から臨床現場への橋渡し研究、地域医療の最後の砦を担う医学部附属病院での最先端治療の導入と温かく安全な看護により、皆様の健康増進や新たな治療法の開発に寄与してきました。

今後も、地域に根ざした最先端の研究や国際交流を推進し、医療の進歩を通じて持続可能な社会づくりに貢献いたします。

鳥取県は、『因幡の白兎』や『赤猪岩神話』といった古事に由来する医療の神話が残る地域です。日本海や大山に象徴される雄大な自然に囲まれて、海や山のスポーツ、豊かな食材など多彩な魅力があります。このように豊かな歴史と自然のもとで、学問や研究に専念できる環境が整っています。研究室や学科の垣根を越えた学際的連携、地域医療機関や自治体、さらには海外の大学・研究機関との協力を積極的に進めることで、学生や研究者一人ひとりが高い倫理観と探究心を培えるよう、カリキュラムや学修・研究環境の充実にも力を注いでまいります。

これからも、鳥取大学医学部の新たな挑戦にご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

鳥取大学医学部長

永島 英樹

Hideki Nagashima



CONTENTS

02 医学部理念

02 医学部の教育目標

03 医学部長メッセージ

04 医学科

学科長メッセージ

基本方針

学科の特色

カリキュラム

在学生の声

卒業後の進路

卒業生の声

教育・研究

22 生命科学科

学科長メッセージ

基本方針

学科の特色

カリキュラム

在学生の声

卒業生・修了生の進路

卒業生の声

Q&A

教育・研究

30 保健学科

学科長メッセージ／基本方針

32 看護学専攻

専攻主任メッセージ

専攻の特色／カリキュラム

卒業後の進路／卒業生の声／在学生の声

34 検査技術科学専攻

専攻主任メッセージ

実習の様子／カリキュラム

卒業後の進路／卒業生の声／在学生の声

36 教育・研究

38 キャンパスライフ

40 附属病院

42 入試情報

43 アクセス



新たな医療を切り開く医師の養成を目指す

MESSAGE

医学科長 前垣 義弘
Yoshihiro Maegaki

優れた技能と豊かな人間性・倫理観を身に付け、患者中心の医療を実践できる医師を養成します

鳥取大学医学部医学科は、今年で創立80周年を迎えます。近年の目覚ましい医療の進歩に貢献し、山陰のみならず国内外に多くの優れた医師・研究者を輩出してきました。

本学医学科では特徴あるカリキュラムを作成し、学生教育に力を入れています。コミュニケーションに重点を置いたヒューマンコミュニケーションと早期体験・ボランティアを1、2年次に学びます。基本的なマナーやチーム医療、相手の立場になって行動することを体験的に学びます。3年次には、基礎および臨床教室で教員の指導の下に医学研究を行います。4年次には、社会医学的テーマ（地域保健、地域医療、産業保健、学校保健、法医学）を、専門職からの講義や地域に出かけての

フィールドワークから学びます。また、医療シミュレーターを使って臨床技能の習得を図ります。さらに地域医療教育を1年次と4年次に受講しプライマリ・ケアを学びます。また、イノベーション教育では、機器開発のプロセスを学びます。

米子市は美しい海と山に恵まれ、食べ物も美味しく、人も温厚とても暮らしやすい土地です。マリンスポーツやウィンタースポーツも盛んです。医学部は運動や文化・社会活動のサークル活動が盛んです。チューター（クラス担任）制度があり、入学してから卒業・国家試験合格まで学生の支援を行っています。人の病を治したい方、医学研究がしたい方、人の役に立ちたい方を歓迎いたします。



基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部医学科では、その教育目標を踏まえ、学生が医学部医学科の教育課程を修め、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力や特性を身につけたときに学士（医学）の学位を授与します。

1. 医師に求められる基本的な知識、技能、態度を修得し、それを生涯にわたって維持向上させる姿勢を有している。
2. 豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会に対する自身の役割を認識し、患者中心の立場に立った医療を実践する能力を身につけている。
3. 論理的思考力、高度な判断力、コミュニケーション能力を身につけ、他者と協働して医療・研究を行う能力を有している。
4. 常に知的探究心と創造性を持ち、最新の医学的知識を身につけ、国際的な視点で物事を考える能力を有している。
5. 地域や地域で暮らす人を愛する心を持ち、コミュニティと連携して地域医療の向上に貢献する能力を有している。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部医学科では、卒業認定・学位授与の方針を実現できるように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した教育プログラムを導入し、到達目標を明確にし、卒業時までに医師あるいは研究医になるために必要な知識、技能、態度を身につけられるようなカリキュラムを組むことを基本的な方針としています。
2. 人間力を高め、幅広い能力を持った職業人を養成するため、教養教育を受講する機会を広く提供し、人間力の構成要素がバランスよく身につくカリキュラムを展開します。
3. 学問に対する興味を深め、学問・研究が社会に貢献している実状を理解させる教育を実践します。
4. 創造力豊かな医療人を育成するためイノベーション教育を実施します。
5. 生命倫理、利益相反、危機管理、環境問題等の社会的に関心の高い学問領域を重視した教育を実施します。
6. 人体および人体標本に対する礼意や倫理に関する教育、守秘義務に関する教育を実施します。
7. 情報社会において安全かつ有効にネットワークを活用できるようにするため情報リテラシー教育を実施します。
8. コミュニケーションの大切さを実感させる教育を実施します。手話をコミュニケーション方法として取り入れるために手話教育に力を入れます。
9. 研究体験、先端医学講義、及び英語論文抄読などにより、リサーチマインドを涵養します。
10. 診療英会話などの実践的英語能力の向上を目指します。海外の学術交流協定校との間で臨床実習体験などの交流を行います。
11. 全人的医療人育成のため、低学年から早期医療体験を通じて、医療従事者としての動機付けを行い、臨床講義終了後に地域医療体験で地域に密着した医療を学ぶとともに地域の保健、福祉、介護の実践と多職種連携の重要性を理解する教育を実施します。
12. グローバルスタンダードを視野に入れた診療参加型臨床実習を実施します。

(2) 教育方法

1. 目標とする学修成果を達成できるように、対話型、参加型教育を展開して能動的な学習を推進します。

(3) 学修成果の評価

1. 学部の定める成績評価基準に基づき、学修成果の達成度を知識、技能、態度について試験、レポート、評価表等を用いて厳格に評価するとともに、学生の学修成果達成度を可視化することに努めます。
2. 学修成果をモニターして教育課程の効果を検証し、教育課程の編成に反映します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

医学部医学科では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域特性に合わせた医療の実践や最先端の医学を創造できる医師を養成するために、次のような人を広く受け入れます。

1. 医学に関心があり、目標に向かって継続的に努力できる人
2. 医学を学ぶために必要な基礎学力・教養をもつ人
3. 問題を解決するための柔軟な思考力及び豊かな表現力をもつ人
4. 思いやり、責任感及び協調性のある健全な考え方もつ人
5. 医学・医療と保健・福祉の発展に貢献したいと考えている人
6. 地域・国際医療に関心をもち、貢献したいと考えている人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、多角的視野など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜及び学校推薦型選抜、社会人を対象とした選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

学科の特色

1. コミュニケーション・イノベーション・地域医療教育をバランスよく配分した魅力的なカリキュラム

モデル・コア・カリキュラム(全国統一の精選された基本的内容)と本学のミッションである特徴的教育(コミュニケーション・イノベーション・地域医療の教育)をバランスよく配分した魅力的なカリキュラムを皆さんに提供します。特に、本学独自の理念に基づくヒューマンコミュニケーション、手話教育をはじめ、基礎医学体験、小グループに分かれて行うチュートリアル教育など、学生が自主的に選択できる多彩なメニューは魅力に溢れています。基礎的な知識・技術を修得し終えると、CBTとOSCEという全国共用試験を受験します。合格すれば、本格的な臨床実習がはじまります。2018年度から開始した新カリキュラムではこの臨床実習期間を66週に延長し、大学病院のほかに近隣の関連医療機関も参加して、学生も医療スタッフの一員として加わる診療参加型実習を実践しています。

近年、医学教育に対する社会のニーズは多様化し、多彩な人材の輩出が求められています。そのため、私たちの教育方針は基礎的知識に留まらず、自ら課題を探究し、解決策を提案できるアクティブラーニングへと転換を図っています。皆さんのやる気一つで、研究室はいつでも門戸を開放し、自主的研究に取り組む機会を設けています。2018年7月には、私たちの教育内容が国際基準に適合しているかどうかについて、日本医学教育評価機構による分野別評価を受審し、7年間の認定を受けました。医師免許取得後、本学医学科の卒業生は、医療、教育・研究、行政面の多彩な課題に対応すべく、山陰・日本国内・海外のさまざまな地域で活躍しています。

2. 全世界に広がる提携大学への留学研修が可能

鳥取大学では、夏季休暇などを利用してカナダの大学等で短期研修を行う制度があります。また、海外交流協定締結校や教員の海外共同研究を利用した研修などもこれまで行われてきました。

2017年からはイギリスの大学及びイギリス国内の診療所での家庭医療研修を実施しました。2020年以降は新型コロナウイルスのパンデミックにより海外研修ができませんでしたが、2023年にはCovid-19が5類感染症となり海外渡航が可能になりました。そして2024年3月・2025年2月には鳥取大学医学部と提携しているインドネシアのデポネゴロ大学を医学生と訪問し、プライマリケア研修を行いました。2024年10月にはデポネゴロ大学の教官と医学生が鳥取大学に来訪し、学生同士の国際交流も活発に行われています。そのほかにも中国、韓国などにも鳥取大学医学部と提携している大学が複数あります。鳥取大学の医学生には、ぜひ海外で見聞をひろめていただき、国際的な視野をもつ人材に育ってほしいと思います。



1・2. シミュレーターを用いた気管挿管実習 3. VRを用いた鼻咽頭ぐい液採取実習

カリキュラム

※1～3年次は下記の専門科目の他に、全学共通科目(教養科目、外国語科目等)を学びます。

1年	2年	3年	4年	5年	6年
行動科学	基礎薬理学	医科栄養学	法医学	臨床実習Ⅰβ	臨床実習Ⅱ
基礎医学体験	基礎消化器学	病理学各論	社会医学チュートリアル・実習		
最新診断・治療学	基礎循環器学	疫学と予防医学	耳鼻咽喉・頭頸部外科学		
医学史	基礎呼吸器学	研究室配属	皮膚科学		
実験動物学	基礎泌尿器学、基礎生殖器学	メディカルコミュニケーション	産科学		
医用統計学	基礎感覚器学	臨床遺伝学	臨床成長・発達学		
基礎地域医療学	基礎神経学	総合診療・症候学-	臨床感染症学		
免疫生物学	基礎内分泌・代謝学、基礎血液学	臨床内分泌・代謝学	総合感染症学		
遺伝生化学	解剖学実習	診断学	臨床腫瘍学		
発生医学	基礎感染症学・実習	放射線診断学	免疫・アレルギー		
細胞組織学	基礎医学実習	治療学	麻酔科学		
細胞生理学	病理学総論	臨床消化器学	救急医学		
細胞生化学	社会環境医学	臨床循環器学	老年医学		
基礎運動器学	基礎医学特論Ⅰ、基礎医学特論Ⅱ 画像診断入門	臨床呼吸器学	医療情報学		
		臨床運動器学	地域医療体験		
		臨床神経学	PBLチュートリアル		
		眼科学	臨床地域医療学		
		臨床泌尿器学	臨床医学特論		
		臨床生殖器学	臨床実習入門		
		臨床血液学	臨床実習Ⅰα		
		神経精神医学			

在学生の声

1年次に医学の基礎を学び始め、2年次からはより専門的な内容を学んでいきます。2年次の解剖学実習では、人体についての理解を深め、医師となることの責任感を学ぶことができます。3年次には研究室配属があり、自ら研究テーマを決めて、未知のことを探究する研究の楽しさを感じることができます。また、鳥取大学ならではの医療手話やヒューマンコミュニケーションの講義を通して、患者さんに寄り添ったコミュニケーションのあり方について学ぶことができます。

様々な分野を専門として、実際に医師として臨床にあたっておられる先生方の講義から、医学の興味深さを感じるとともに、自分の将来の医師像について考えるきっかけとなります。また、ボランティアサークルでは、病棟や保育園の子どもたちと関わることができ、講義とは違った視点からの学びがあります。同じ医師を志す仲間と日々議論し合いながら学びを深めることで、充実した大学生活を実感しています。

私の週間スケジュール (3年次後期)



藤村 里奈さん
医学科6年(鳥取県出身)

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1時限	応用英語Ⅱ	臨床血液学	神経精神医学	応用英語Ⅱ	臨床生殖器学
2時限	臨床神経学	臨床血液学	眼科学	臨床生殖器学	神経精神医学
3時限	臨床運動器学	臨床泌尿器学	臨床神経学	総合診療-症候学-	眼科学
4時限	臨床運動器学	臨床泌尿器学	臨床神経学	総合診療-症候学-	神経精神医学
5時限	補講など	補講など	補講など	補講など	補講など
放課後	サークル活動	自習	サークル活動	自習	自習

卒業後の進路

(主な卒後臨床研修先：令和2～令和6年度)

北海道・東北

勤医協中央病院
JR札幌病院
坂総合病院
八戸市立市民病院
会津中央病院

関東

JR東京総合病院
横浜市立大学附属病院
横浜市立大学附属市民総合医療センター
横浜労災病院
湘南鎌倉総合病院
群馬大学医学部附属病院
慶応義塾大学病院
関東中央病院
災害医療センター
埼玉石心会病院
自治医科大学附属病院
順天堂大学医学部附属浦安病院
聖隷横浜病院
川崎協同病院
相模原協同病院
東大和病院
埼玉メディカルセンター
筑波大学附属病院
東京慈恵会医科大学附属病院
荏原病院
練馬総合病院
武蔵野赤十字病院
明和病院
日本鋼管病院
上尾中央総合病院
青梅総合医療センター
済生会横浜市南部病院
さいたま市立病院
新東京病院
多摩北部医療センター
聖路加国際病院

津田沼中央総合病院
多摩総合医療センター
川口市立医療センター
千葉医療センター

中部

久美愛厚生病院
協立総合病院
金沢大学附属病院
総合大雄会病院
大垣市民病院
長野赤十字病院
津島市民病院
藤田医科大学病院
富山県立中央病院
碧南市民病院
名鉄病院
名古屋掖済会病院
岐阜県総合医療センター
長良医療センター
福井赤十字病院
岐阜赤十字病院
岐阜大学医学部附属病院
藤田医科大学病院
浜松医科大学医学部附属病院
新潟大学医歯学総合病院
浜松労災病院
聖隷浜松病院
磐田市立総合病院

近畿

PL病院
高槻病院
明石医療センター
河内総合病院
京都市立病院
京都大学医学部附属病院

京都第一赤十字病院
京都第二赤十字病院
近畿大学奈良病院
新京都南病院
公立中央総合病院
豊岡病院
甲南医療センター
高槻赤十字病院
大阪医療センター
済生会滋賀県病院
市立伊丹病院
市立吹田市民病院
市立川西病院
市立池田病院
市立東大阪医療センター
市立奈良病院
市立豊中病院
滋賀医科大学附属病院
滋賀県立総合病院
神戸市立医療センター西市民病院
神戸市立医療センター中央市民病院
神戸赤十字病院
神戸大学医学部附属病院
神戸掖済会病院
府中病院
西宮市立中央病院
赤穂市民病院
大阪医科薬科大学病院
大阪公立大学医学部附属病院
大阪大学医学部附属病院
泉尾病院
野江病院
大阪急性期・総合医療センター
天理よろず相談所病院
奈良県総合医療センター
奈良県立医科大学附属病院
尼崎医療生協病院
八尾徳洲会総合病院

姫路医療センター
姫路聖マリア病院
姫路赤十字病院
兵庫医科大学病院
兵庫県立加古川医療センター
兵庫県立淡路医療センター
兵庫県立尼崎総合医療センター
北播磨総合医療センター
箕面市立病院
明石市立市民病院
明和病院
神戸労災病院
和歌山医療センター
和泉市立総合医療センター
加古川中市民病院
近畿中央病院
丸太町病院
大阪府済生会吹田病院
京都府立医科大学附属北部医療センター
阪南中央病院
野崎徳洲会病院
兵庫県立丹波医療センター
神戸市立西神戸医療センター
彦根市立病院
兵庫県立はりま姫路総合医療センター
神戸医療センター
京都医療センター
和歌山県立医科大学附属病院
四日市羽津医療センター
淡海医療センター
赤穂中央病院
関西医科大学附属病院
京都府立医科大学附属病
石切生喜病院
土庫病院
地域医療機能推進機構大阪病院

山陰

米子医療センター
鳥取生協病院
鳥取県立厚生病院
鳥取県立中央病院
鳥取市立病院
鳥取赤十字病院
鳥取大学医学部附属病院
山陰労災病院
浜田医療センター
松江市立病院
松江赤十字病院
大田市立病院
島根県立中央病院
島根大学医学部附属病院

山陽・山口

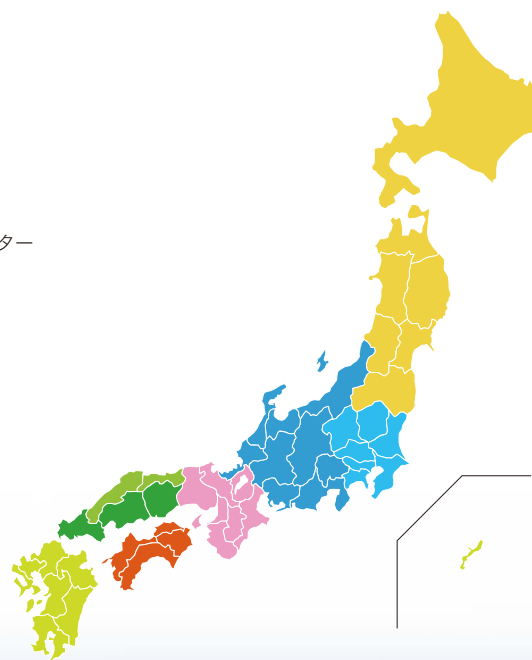
岡山協立病院
岡山済生会総合病院
岡山市立市民病院
岡山大学病院
岡山労災病院
岡山医療センター
倉敷中央病院
津山中央病院
マツダ病院
公立みつぎ総合病院
広島市民病院
安佐市民病院
広島大学病院
呉共済病院
呉医療センター・中国がんセンター
東広島医療センター
日本鋼管福山病院
福山医療センター
福山市民病院
関門医療センター
岩国医療センター
徳山中央病院
広島赤十字・原爆病院
JR広島病院
JA尾道総合病院
岡山赤十字病院
中国労災病院興生総合病院

四国

香川県立中央病院
高松赤十字病院
徳島県立中央病院
高知大学医学部附属病院
愛媛県立中央病院

九州・沖縄

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
浦添総合病院
沖縄県立宮古病院
沖縄県立中部病院
中部徳洲会病院
熊本赤十字病院
鹿児島市立病院
大分赤十字病院
中頭病院
福岡市民病院



卒業生の声



皆さんは大学卒業後の働く姿をイメージしたことがありますか。
私は鳥取大学医学部を卒業し、鳥取県内で総合診療を学び、現在は総合診療医として地域医療学講座の特命助教という立場で、総合診療教育や組織づくりをしています。学生時代に地域医療研究部に所属していたことや、今の道に入るきっかけとなる先生と出会って、今は医療現場で地域医療を実践しつつ、たくさんの仲間と一緒に進んでいます。

勤務先：鳥取大学医学部 地域医療学講座 特命助教
大塚 裕真 さん（2016年度卒業）

鳥取大学医学部では最先端の医療などの知識を学べるだけでなく、本学の特徴でもある「人間力」を高める教育や機会も充実しています。私自身も授業、部活、課外活動などを通じて、時に悩み、時に喜んだ経験があり、それが今につながっています。皆さんが将来楽しく、しっかり働く姿をイメージされたのなら、鳥取大学はぴったりです。将来、皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

解剖学講座……………P11

生理学講座……………P11

統合生理学分野

適応生理学分野

病理学講座……………P11

感染制御学講座……………P12

細菌学分野

ウイルス学分野

医動物学分野

社会医学講座……………P12～13

環境予防医学分野

健康政策医学分野

法医学分野

医学教育学講座……………P13

医学教育学分野

健康運動科学分野

ゲノム再生医学講座……………P14

再生医療学分野

ゲノム医療学分野

病態解析医学講座……………P14

生化学分野

薬理学・薬物療法学分野

統合内科医学講座……………P15～16

画像診断治療学分野

血液内科・臨床検査医学分野

循環器・内分泌代謝内科学分野

消化器・腎臓内科学分野

呼吸器・膠原病内科学分野

周産期・小児医学分野

器官制御外科学講座…P16～18

消化器・小児外科学分野

心臓血管外科学分野

呼吸器・乳腺内分泌外科学分野

泌尿器学分野

産科婦人科学分野

麻酔・集中治療医学分野

救急・災害医学分野

感覚運動医学講座……………P18～19

整形外科学分野

皮膚科学分野

視覚病態学分野

耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

口腔顎顔面外科学分野

脳神経医科学講座……………P19～20

脳神経内科学分野

脳神経外科学分野

脳神経小児科学分野

精神行動医学分野

神経病理学分野

地域医療学講座……………P20

臨床感染症学講座……………P21

医学部附属病院……………P21

薬剤部

医療情報部

解剖学講座

人体の不思議を探究しよう！

教授

海藤 俊行



皆さんは、人体の構造について考えたことがありますか？例えば、手を使って字を書いたり、スマホを操作したり、楽器を演奏したり…私たちは日々、さまざまな活動をしています。でも、手を動かすのに、いくつかの筋肉が働いていると思いますか？実は、30以上の筋肉が、3種類の神経からの指令を受けて協調的に働くことで、手を動かしているのです。解剖学講座では、こうした医学の基本となる人体の構造や機能について学びます。皆さんは、研究にも興味がありますか？解剖学講座では、次のようなユニークなテーマで研究を行っています。

- ・バスカル曰く、“人間は考える葦である”。自然界では弱い存在である人間が偉大になれたのは、脳の“思考”のおかげだ！：脳の構造と機能の維持機構
 - ・100点満点！頭をなでられると褒められた気分になるのって不思議だね？：皮膚感覚神経終末の分子発現
 - ・人類の歴史、日本人の起源、それは最大のミステリー：古人骨の形態解析
- ぜひ、大学と一緒に楽しく学びましょう！

適応生理学分野

生体内外の変化に対する
適応現象を解析

教授

松尾 聡



公園を散歩しているとき道端に美しい花が咲いていると、私たちは眼と頭を動かし網膜の中心で花の像をとらえます。このような定位反応は、同じ刺激であっても生物によって全く異なった戦略をとりますが、いずれの反応もうまく最適化されています。出力はどのように決定されるのでしょうか？その機序について、様々なモデル動物（ブラナリア、ラット、ウサギなど）を用い包括的に解析し、理解することを目指しています。またヒトを対象に下半身陽圧負荷によって体性感覚入力を変調させ、循環や運動の出力を検証しています。これをリハビリに応用することや、浮腫や起立不耐性の対抗策を検討しており、臨床に還元することが目標です。

統合生理学分野

生理学講座

ワクワクする研究体験を通じ
鳥取から世界へ貢献しよう！

教授

檜山 武史



「生理学」は、体の中で起きている現象をリアルタイムに捉えて、そのしくみを理解することを目指す学問です。体には、血圧や体温、体液成分など、体内環境を一定の幅に保つ「恒常性」のしくみがあります。そのために全身を制御するしくみが、大きく分けて二つあります。インターホンのように線でつながった相手だけに伝える「神経系」と、放送局の電波のように物質を広く体内に拡散させて受信機を持った受け手に伝える「内分泌系」です。統合生理学分野では、新しい遺伝子改変動物と最新の解析技術を駆使して、この両者を統合的に理解しようとしています。生体階層（遺伝子、分子—細胞—組織—器官—個体）を統合的に理解することを念頭に、恒常性が保たれ（健康な状態）、また壊れてしまう（疾患）メカニズムを追求しています。新しい技術で生命現象の実体に迫り本質を理解することこそが、革新的な治療法の開発につながるものと信じています。脳神経科学やストレス、自律神経、計算科学、工学技術に興味のある人は、ぜひ一度訪ねて来てください。

病理学講座

リサーチマインドを持った
病理医を育成する

教授

梅北 善久



病理学講座では、学部学生(M2、M3)の教育に加え、附属病院の病理診断科・病理部の業務(病理診断・病理解剖・細胞診断・病理専攻医の育成・研修医の指導・臨床実習Ⅰ、Ⅱ)を担っています。また、大学院生と共に、主に以下のテーマで研究を行っています。日常、行っている病理診断・病理解剖は全身諸臓器に渡っていますので、全身を俯瞰するトレーニングが自然にでき、研究を行う上で役立っています。病理診断・病理解剖の過程において、疑問に思った点から研究の視点を見出し、独創的な研究を行うことによって、診断病理学の発展を通じた医療への貢献を目指しています。

1. Maspin (Mammary serine protease inhibitor) が悪性腫瘍(乳癌・肺癌・肝癌・口腔癌)の進展に及ぼす分子機構の解明
2. 肺腺癌における病理組織学的多様性形成機序の解明
3. 肺癌及び乳癌の予後不良因子に関する分子病理学的研究(Laser microdissection法とNGSを用いた病理標本からの遺伝子発現解析)
4. メルケル細胞癌の分子病理学的研究

細菌の病原因子を深掘り



細菌は私たちの体に常在菌として存在していたり、食品の発酵に使われるなど、私たちの生活になくてはならない存在ですが、中にはヒトに感染症をおこす病原細菌がいます。細菌学分野では、様々な細菌の特徴や、病原細菌によって引き起こされる感染症、それに対する対処法などについて講義を担当しています。

また、研究面では、様々な細菌の病原因子について知見を深めています。クライオ電子顕微鏡を用いた新しい種類の線毛が構築されるメカニズムや、細胞接着因子としての線毛を阻害するような薬の検索を行っている他、細菌の腸管感染で遠く離れた中枢神経系や腎臓をどのように障害するのかなど、分子同定から動物モデルまで幅広く研究を行っています。細菌学に興味のある方、病原因子をいっしょに深掘りしてみませんか？

ウイルスを学び、究め、備える



新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、世界を巻き込むウイルス感染症の問題の大きさを痛感させただけでなく、我が国の新型感染症に対する研究開発能力の低さを浮き彫りにしました。人類の歴史は、幾度となく現れたウイルスの脅威との戦いの歴史でもありました。人類が生き続ける限り、これからもウイルスは人類の脅威として現れるでしょう。ウイルス学分野は、ウイルス感染症の脅威に備え、その問題を軽減することを目指しています。このために、私達は様々なウイルスがどのように流行するのかを調べ、ウイルス感染症の予防や流行の制御を目指して研究しています。また、ウイルスが病気を起こす仕組みを解明し、新しいウイルス感染症の診断方法や、治療法の開発を目指して研究しています。そして得られた知識や技能や経験を、本学の学生さん達だけでなく、社会と共有することで、いつか来るかもしれないウイルス感染症に備えていくのが私たちの使命です。

より良い健康を目指す社会へ

教授

森田 明美



健康政策医学分野では、健康増進・疾病予防に関わる要因を、環境から遺伝まで幅広く明らかにし、現在の健康政策の改善点を考え、新たな対策を提案することによって、全てのライフステージにおける健康課題の解決を目指します。具体的には、地域行政と協力した「フレイル予防のためのコホート調査」、環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に参加し、認知症・骨粗鬆症等の予防や、母子関係・子どもの精神発達等に関連する要因を調べています。栄養・運動による生活習慣病予防に関する調査研究も行っています。日本や海外の気候変動が及ぼす影響の研究や、メンタルヘルス等の産業保健医学（産業医の育成）にも力を入れています。教育に関しては、社会医学講座各分野や他講座とも協力して、衛生・公衆衛生学関連の講義・実習や教養教育を担当しています。上記の多様な研究と教育を推進するために、医師のみならず、医療・教育関係者等多様なバックグラウンドを持った人間がメンバーとして在籍しているのが当分野の特色です。

死者から学び生者に活かす

教授

飯野 守男

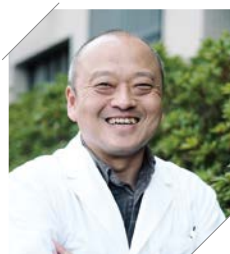


法医学は医学部のなかで唯一、死因究明を専門とする分野です。とくに異状死、いわゆるアンナチュラ・デスのメカニズムを解明することは事件・事故の真相を解明すると同時に、死者の尊厳を守り、ひいては遺族をはじめとした関係者の気持ちを整理するためには欠かせない仕事です。そのために、我々はコンピューター断層撮影（CT）を活用した死亡時画像診断（Autopsy imaging, Ai）による死因究明と、DNAによる法医遺伝学的な個人識別法の開発を研究の2本柱とし、日常の法医解剖を通して真実を解明し続けています。また不慮の事故の事例からは、なぜ事故が起こってしまったのか、事故を防ぐ方法はなかったのか、類似の事故の再発を防ぐためにはどうすればいいのかを常に考え、死者から学び生者に活かす「予防法医学」の学問体系の確立に向けて努力しています。「死因究明により生きている人たちの命を守りたい」。この大きな使命感と責任感を胸に教育・研究を続けています。

寄生虫を通じて
地域や世界と繋がる

教授

大槻 均



皆さんは「寄生虫」と言われたら何を思い浮かべますか？「アニサキス」と答える人がほとんどでしょう。サバ・イカなどの生のお産物から感染する、本来イルカやクジラの寄生虫であるアニサキスは、今の日本人には最も身近な存在です。しかし、わずか70年ほど前、8割を超える日本人が糞便のついた野菜や土壌から感染する寄生虫に感染した状態で生活していました。今でも世界では寄生虫は全く普通の存在です。中にはマラリアのように2億人を超える人に感染して、毎年60万人もの人命を奪い続けている恐ろしい寄生虫もいます。一方、ヒトの体の中で、免疫による攻撃をくぐり抜けて生き続ける寄生虫が持つ不思議な仕組みは、私たちの健康を守る新しい治療手段になる可能性も秘めています。野生動物の里への接近の増加により、動物に寄生するマダニが持つ病原体が引き起こす生命に関わる感染症の患者が増えてきていることは見逃せません。私たち医動物学分野は、中国地方の医学部で唯一の寄生虫と衛生動物を専門に研究している研究室です。地域や世界で寄生虫が引き起こす病気に立ち向かうために、次の4つのテーマで研究を行っています。

1. マラリア原虫の赤血球侵入メカニズムの解明
2. 新規抗マラリア薬の開発と標的分子の探索
3. サナダムシ幼虫による宿主免疫調整機能の解明と医学応用
4. マダニ媒介性感染症の調査・研究

地域に根ざした疫学研究

教授

尾崎 米厚



臨床医学、基礎医学とは別の3つ目の医学の柱、社会医学の講座です。疫学、公衆衛生学に関する分野で、研究分野は、依存症の疫学（喫煙、飲酒、ネット・ゲーム使用、ギャンブル等）、がんの予防、高齢者の要介護、地域医療の疫学、終末期の調査、マイノリティの健康課題等です。学生教育では、1年から4年生の講義、実習を数多く行っています。山陰の地域に出かけて、住民や保健医療福祉関係者との接点の中で学べる教育を重視しています。地域医療・国際保健サークルの顧問をしており、様々な診療科で働く卒業生を中心に社会人大学院生も多いです。国（厚生労働省、文部科学省）、県、保健所、県医師会、市町村、医療保険者、地域住民等と協働して健康課題に取り組んでいます。社会医学系専門医プログラム責任者も務めています。社会問題となっている健康課題の対策につながる研究、後輩育成としての地域に根差した学生教育、地域社会の健康課題解決への支援の3本柱を基軸に活動しています。

次代を担う医師を育て
未来の医療を創造する

教授

植木 賢



近年、少子高齢化に加え科学技術の進展によりロボットやAIが登場し、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。そのため、今後このような社会変化に対応しながら、次世代の医療を創造することは重要な課題です。

そこで、本学は世界に通用する最新の教育カリキュラムを取り入れ、理想とする医師像やキャリアプランを思い描く支援を行い、プロフェッショナルな医師としての素養を育成します。また、本学が開発した最先端の医療用シミュレーターロボット等を用いて体験学習を充実させ、確かな臨床技術や心構えを育みます。さらに、“やる気の心理学”や“発明楽”をはじめとしたイノベーション教育により、新しい発想をもち、未来の医療を創造する力を養います。生命の尊厳に触れながら、人に役立つ喜びを感じ、医療・研究を通じて世界の人々に貢献できる医師の育成を目指します。

健康と運動を科学する

講師

西村 正広



私たちは毎日の生活の中で歩いたり、荷物を持ったりして何かしらの身体活動（運動）を行っています。しかし、その運動量は健康を保つ上で十分な量なのでしょうか？厚生労働省は「歩行以上の強度で、1回30分以上、週2回以上」を健康に有益な運動とし、我が国の成人において、その運動が1年以上実施できている人は3割にも満たないと報告しています。

運動が健康にもたらす効果は、心臓病や2型糖尿病、結腸がんなど多くのNCDs（非感染性疾患）の予防効果や内臓脂肪の減量効果、身体機能の維持・向上効果、あるいはうつや認知症の予防など様々な領域で認められています。そこで私たちの研究室では、対象者の身体状況や基礎疾患などの個人差に応じて、どのような運動が適しているのか等について研究しています。また、健康科学、スポーツ科学分野において、幼児から高齢者、さらにはアスリートを対象とした幅広い研究も行っています。

再生医療学分野

ゲノム再生医学講座

幹細胞制御による革新的な 再生医療技術の開発

教授

難波 大輔



再生医療学分野では、再生医療を「損傷・疾患・加齢・先天性障害によって機能低下や機能不全を起こした組織・器官、さらには、それらの要因によって欠損した組織・器官を再生させる医療」と捉え、生体外で作製した臓器を移植する臓器創生研究だけでなく、生体内で疾患や加齢によって機能低下した臓器の再生にも焦点を当て、研究と教育活動を展開しています。研究では、皮膚・肝臓・腎臓・血管などを対象にし、臓器再生の要である幹細胞研究の推進と再生医療技術の革新に注力しています。特に培養表皮シートを用いた熱傷治療の高度化や新規治療法開発、肝疾患治療用細胞シートによる肝不全の治療などを進めています。さらに、「がん」の形成維持に関わるがん幹細胞や、がん治療による組織障害からの再生も研究対象としています。また、幹細胞生物学や再生医療研究を基盤として、様々な領域で活躍できる人材を育成することも、当分野の大きな使命と位置づけています。

ゲノム医療学分野

ゲノム再生医学講座

遺伝子治療の先端にふれる 鳥大発の次世代バイオ創薬

教授

中村 貴史



従来の手術、抗がん剤や放射線の標準療法に抵抗性を示す難治性悪性腫瘍に対して、新しい治療法の開発が望まれています。その一つとして期待されているがんウイルス療法は、様々なメカニズムによって腫瘍を攻撃できる利点があり、ウイルス増殖による直接的ながん細胞の溶解死滅に加え、それに伴って抗腫瘍免疫が賦活化され全身に治療効果を及ぼす、これまでにない全く新しい概念に基づいた治療戦略です。我々は、“どのようにウイルスが細胞に感染し増殖するか？”また、“どのようにウイルスが抗腫瘍免疫を賦活化するか？”といった疑問を分子レベルで解明することを起点にして、正常細胞を傷つけずにがん細胞のみを標的破壊できる、既存のがん免疫療法で奏功しない腫瘍に対しても抗腫瘍免疫を賦活化できる、より安全で効果的ながん治療用ウイルスシーズの創出とトランスレーショナルリサーチを推進しています。また、その実践教育を通して最先端医療の遺伝子治療分野に貢献できる人材を育成しています。

画像診断治療学分野

統合内科医学講座

画像で診る、治療する

教授

藤井 進也



画像診断治療学分野は画像診断、Interventional Radiology (IVR：アイ・ブイ・アール)、放射線治療の3つの分野から成っています。画像診断という言葉は知っていますか？現代の医療では画像診断によって患者さんの体の中を診ることが広く行われています。画像診断には昔から使用されている単純X線（レントゲン）や、身体の内部を断面像で詳細に観察するCTやMRI、核医学検査などがあります。これらの検査を基に患者さんの体の中を診て、適切な診断をするのが画像診断医です。IVRは日本語では画像下治療と呼ばれ、画像診断装置を用いてカテーテルというものをを用いて血管内治療等を行っています。血管の詰まりや止血、がんの治療を主に行っています。放射線治療は悪性腫瘍に対する治療の一つとして重要な役割を果たしています。診断困難な病気を画像診断で診断可能にしたり、治療に難渋していた病気がIVRや放射線治療により治療可能になるべく、臨床研究や基礎研究に取り組んでいます。

血液内科・臨床検査医学分野

統合内科医学講座

Clinical questionを 紐解く

教授

河村 浩二



わたしたちの教室では、血液内科学・臨床検査学の教育・研究ならびに血液内科の診療を行っています。近年、血液内科学の進歩は目覚ましく、急性白血球、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液疾患に対する新規薬剤が次々に登場し、その治療成績は改善してきています。わたしたちは、Evidence-Based Medicine (EBM; 根拠に基づく医療) を心掛けていますが、実際の臨床現場には多くのClinical question (臨床的疑問) が存在しています。それらを解決する方法として、臨床研究があります。患者さんを診ることで得たClinical questionを臨床研究によって解決し、新たなEBMを造り出すことを目標に頑張っています。また、臨床医学は、数多の基礎研究の積み重ねの上に進歩してきました。移植免疫や感染症に関する基礎研究にも取り組んでいます。若い教員が多く、明るい雰囲気の下で、臨床・教育・研究に邁進しております。

生化学分野

病態解析医学講座

身体や空間・時間を イメージできる生化学を目指す

教授

中曾 一裕



生化学分野は教育面では生化学（細胞生化学）と関連基礎医学領域を担当しています。生化学教育では、とくく平面的な学問となりやすい生化学を、いかに立体的かつ身体をイメージできる形で伝えられるかという点に重きを置いています。研究面でも、試験管・細胞レベルだけではなく、個体レベルまで発展が期待できる研究を重視しています。直近20年は酸化ストレス関連研究が主流でしたが、近年では一つの現象を別の視点から捉える考え方を研究に取り入れています。例えば「ある分子の酸化」という現象を例に挙げると、周辺の分子は相対的に還元状態になったと捉えることができますし、「ある細胞が強力になった」とすれば、周辺の細胞は相対的に弱くなったと捉えることもできます。生体で起こる現象は、どの視点から観測するかによって正反対の現象にも捉えることができ、集団の中では相対的な力関係の変化が常に生じていることに注目する考え方です。我々の身体の中にはこういった相対的な力関係を変化させる分子メカニズムが存在します。これらの考え方を元に、認知症・うつ症状モデル、敗血症モデル、炎症性腸疾患モデルなど、臨床的な考え方にもつながるテーマに力を入れています。

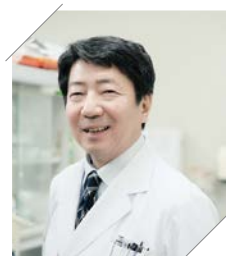
薬理学・薬物療法学分野

病態解析医学講座

キーワードは「融合」！

教授

今村 武史



薬理学・薬物療法学は、薬剤の作用機序や薬理作用などを担当する基礎薬理学と、薬剤投与から排泄までの体内動態解析などを含む臨床薬理学が「融合」した分野です。医学教育でも、薬剤の基礎知識から副作用管理などの臨床利用まで切れ目のない薬理学教育を実践しています。研究面では、疾患の病態解明を目指すことはもちろん、常に創薬を視野に入れ、候補物質の薬効の検定から実用化までのステップが身近なことが大きな特色と言えます。つまり基礎研究成果の橋渡しによる臨床応用への「融合」に向けた研究です。代謝性疾患である糖尿病やメタボリック症候群、肥満症に共通して認められる「インスリン抵抗性」を柱とし、心血管系分野である心不全や不整脈、神経系分野では骨格筋萎縮症について、インスリン抵抗性合併症としての視点から研究を行っています。内分泌分野では甲状腺機能亢進症にも研究の焦点を当てています。診療面では薬物療法内科を担当し、種々の代謝疾患の体現ともいえる肥満症について多職種「融合」の診療を行っています。更なる発展へ、融合の同志をお待ちしています。

循環器・内分泌代謝内科学分野

統合内科医学講座

情報発信能力のある 医師を目指して



私たち循環器・内分泌代謝内科学分野は、山陰地方における最後の砦として、高度で専門的な医療を地域に提供するという重要な使命を担っています。この地域で完結する質の高い医療体制の構築を目指し、日々の診療・教育・研究に真摯に取り組んでいます。当分野が専門とする循環器疾患および内分泌・代謝疾患は、患者数が非常に多く、かつ多様で広範な病態を含むため、基礎研究から臨床研究に至るまで、さまざまな視点から研究を展開することが可能です。たとえば、心不全や不整脈、動脈硬化、糖尿病、甲状腺疾患などを対象とし、病態解明、バイオマーカーの探索、新規治療法の開発などに関する研究を推進しています。さらに近年では、人工知能 (AI) 技術による診断支援や予後予測モデル構築し、医療の質と効率を飛躍的に高めることを目指した先進的な取り組みを進めています。

消化器・腎臓内科学分野

統合内科医学講座

総合消化器内科専門医・ 腎臓内科専門医の育成

教授

磯本 一



当教室は第二内科診療科群として主に消化器疾患と腎臓疾患を担当しており、内科各領域・関連各科との連携のもと大学病院の専門診療を行っています。まずプライマリーケアと救急疾患に対応できるよう医師としての基本教育を重視します。専門医の指導のもと消化器病と腎臓病の臨床経験を積める講座の特性を活かして全身を診る内科医としての総合力の涵養につとめます。その上で高次病院における先進医療を実践し高度な専門医療・地域医療を担える総合力の高い消化器内科医を養成します。また、学内外の基礎医学教室と共同して、学際的な研究に取り組むことで消化器病学、腎臓病学の病態の理解が深まり、臨床医としての成長にも繋がるものと思います。

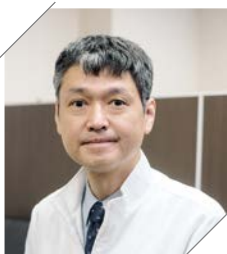
呼吸器・膠原病内科学分野

統合内科医学講座

呼吸器・膠原病内科とは

教授

山崎 章



私たちの教室では、呼吸器、膠原病の診療・研究を行っています。呼吸器の疾患には、肺炎や間質性肺炎、喘息、肺癌、膠原病には関節リウマチや強皮症、SLEなどがあります。呼吸器と膠原病を1つの教室でみる大学は日本でも数少ないですが、膠原病には呼吸器疾患が合併することもあり、また、肺癌の診療の中で膠原病の様な症状も出てくることもありますので、1つの教室でこれらの疾患の診療を行うことはとても有意義です。このメリットを研究にも生かしています。基礎研究として肺癌の免疫に関する研究、気管支喘息に関わる平滑筋細胞の研究、強皮症の線維化に関する研究などを行っています。また、臨床研究として多施設での肺癌の研究、難治性疾患である間質性肺炎の画像や臨床像に関する研究などを行っています。まだまだ呼吸器や膠原病はわかっていないことが多く、興味深い領域です。また全国的にも専門医が少ない領域です。一緒に勉強してみませんか。

周産期・小児医学分野

統合内科医学講座

すべてのこどもに最善の医療を

教授

難波 範行



小児の特徴は「成長」することと「発達」することです。周産期・小児医学分野では、日々成長する小児の不思議に着目し、成長をキーワードとして研究を進めています。みなさんは、成長は当たり前のように起こることだと思いませんか。でも、なぜヒトの成人身長は160～170cm前後なのか、なぜ靴のサイズは25cm前後なのか、実は分かっていません。体の大きさを決める重要な要素の1つに、われわれの体を構成する206個の骨があります。私たちは、ヒトiPS細胞を使って、なぜ個々の骨の伸びは異なるのか、特定の骨だけ大きくできないか、チャレンジを開始しています。その他にも希少疾患の網羅的遺伝子検査など、様々な研究を進めています。

このように、日々の診療の中で湧きでる疑問を大切にしつつ、最終的に「すべてのこどもに最善の医療を」届けられるように、日々努力しています。あなたも一緒に小児の成長を科学しませんか。

呼吸器・乳腺内分泌外科学分野

器官制御外科学講座

肺がん・乳がん治療の
更なる発展を目指す

教授

田中 雄悟



呼吸器・乳腺内分泌外科では肺がんと乳がんの診療と研究を中心に行っています。日本では全てのがんの中で、肺がんで亡くなる患者さんが最も多く、乳がん罹患する患者さんは女性で最も多いと報告されています。しかし、近年の診療レベルの向上と研究による治療開発によりその治療成績は明らかに向上しています。呼吸器外科では患者さんに負担の少ない低侵襲手術を最も得意としており、特にロボット支援下手術では全国トップレベルの手術症例数と治療成績を有しております。また、高難度の拡大手術も得意としており幅広い外科治療を行っています。乳腺外科では乳がんに対する診療を包括的に行う一方で、乳房再建手術や遺伝性乳がん卵巣がん症候群への取り組みなど、充実したチーム医療を実践しています。研究では肺がん、乳がんの発がんメカニズムの探索や新規治療開発に力を入れており、手術手技や集学的治療の臨床研究にも数多く携わっております。今後さらなる発展が見込まれる分野で、ハイレベルな技術と研究マインドを常に持った外科医の育成に力を入れています。少しでも興味があれば気軽に相談してください。

腎泌尿器学分野

器官制御外科学講座

グローバル (think globally, act locally) な
泌尿器科を目指す

教授

武中 篤



グローバルとは、地域に密着した診療の中で常に世界に発信する医療を実践するという当教室のキャッチフレーズです。診療と研究を一体のものと考え、診療に溢れている素朴な疑問を研究に生かしています。研究の柱は低侵襲手術、尿路性器悪性腫瘍、尿路性器機能障害です。低侵襲手術についてロボット手術の国内トップランナーであり、本邦初の腎尿管全摘術、副腎摘出術を行う等、国内有数の実績を有しています。さらに欧米、本邦で行われているロボット手術の基盤になっている外科解剖の知見を多数報告しています。医工連携による医療機器開発にも取り組んでいます。尿路性器悪性腫瘍についてはロボット手術の多施設共同研究を主導するとともに、薬物治療に関する多くの多施設共同研究に参画しエビデンス構築の一翼を担っています。尿路性器機能障害については過活動膀胱・神経因性膀胱に対する本邦初のボツリヌス治療を行い、保険適用承認において主導的役割を担ってきました。また腎センターと連携し生体腎移植・献腎移植も推進しています。

消化器・小児外科学分野

器官制御外科学講座

山陰から世界に発信する臨床、
研究、そして教育の実践

教授

藤原 義之



消化器外科では、消化器癌(食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌など)の治療を主に行っていますが、良性疾患(胆嚢炎、ヘルニア、虫垂炎など)や急性腹症にも対応しています。上部消化管(食道、胃)、下部消化管(小腸、大腸)肝胆脾の3グループに分かれ、高度な専門的治療を行っています。近年、体にやさしい手術(ロボット手術を含む鏡視下手術)が普及してきており、我々は積極的に導入しています。又、高度進行癌に対しては手術、抗瘍剤治療、放射線治療を組み合わせた集学的治療・先進的治療を行い治療成績の向上を目指しています。小児外科は、奥山宏臣特命教授を中心に、新生児も含めた小児に対し、心臓、脳、整形を除く全疾患の外科治療を提供する、鳥取県では唯一の診療科であり、かつ最後の砦です。先天奇形、腫瘍、外傷などあらゆる病態に対応することが求められる、やがていのある部門であるとともに、将来を担う若手外科医の教育にも力を入れています。

心臓血管外科学分野

器官制御外科学講座

心臓血管外科における
研究・最先端治療を押し進め、
次世代に繋ぐ価値を創造する

教授

吉川 泰司



心臓血管疾患の外科的治療では、心臓を一時的に停止させたり、人工的に循環を維持したりする必要があるため、人工心肺装置や心筋保護液などの特殊な補助手段が不可欠です。安全かつ確実な治療を実現するためには、これらの補助手段のさらなる向上が求められるとともに、補助人工心臓や再生医療の開発・研究も重要となります。

当分野では、中四国地方でも屈指の心臓血管外科手術数を誇る臨床経験を基盤とし、補助人工心臓治療や再生医療の研究を推進しています。一方で、患者に優しい治療の実現を目指し、低侵襲心臓手術や血管内手術、さらには手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた心臓手術の実践にも取り組んでいます。これらの取り組みを通じて、優れた心臓血管外科治療を次世代へと継承していきたいと考えています。

産科婦人科学分野

器官制御外科学講座

新しい命の誕生と
女性の生涯サポート

教授

谷口 文紀



少子化の時代である今日、健やかな次世代を育んでいく上でドラマチックな女性の一生をトータルに支える産科婦人科の重要性が再認識されています。当科では、地域連携を大切に、大学病院のメリットを生かした質の高い最先端の医療を提供してまいります。教育面では、地域医療、さらには日本の医療の中心となって活躍できる人材の育成を目標とします。周産期分野では、県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、安全な医療を提供することで、患者さんが安心して分娩できるよう全力を尽くします。生殖医療分野では、体外受精などの生殖補助医療の推進のみならず、不妊症の原因疾患である子宮内膜症の治療薬開発ならびに病態解明につながる研究を手掛けています。腫瘍分野では、婦人科がんを対象とした新規ロボット機器を用いた低侵襲手術を推進し、腫瘍発生のメカニズムや治療法を追及しています。このような取り組みにより、将来の幅広い診療につなげていけるよう日々努力を重ねています。

麻酔・集中治療医学分野

器官制御外科学講座

疾病ではなく、人を診る
全身管理のエキスパート集団

教授

大槻 明広



麻酔・集中治療医学分野の活動範囲は広く、麻酔科として手術麻酔管理をはじめ、術前の患者管理から術後の集中治療部における高度な患者管理まで、周術期患者の安全確保と予後の向上、手術の円滑な遂行を目指して活動しています。集中治療部(ICU)では、最新の呼吸循環管理や感染制御、人工臓器の使用などによって、救命が困難と予想される重症患者の生命予後を向上させています。担当する麻酔科医は、麻酔管理で培った全身管理技術を一層高めて、綿密な治療計画に従って治療を推進しています。また、全身管理のエキスパート集団として、これら急性期医療と対照的に、疼痛外来や緩和ケアチームを通して、患者の疼痛を緩和する慢性医療へも貢献しています。麻酔科は、疾病を対象とするだけでなく、疾病をもった人を対象としている診療科です。さらに研究科としては、呼気中麻酔薬濃度の連続測定やICUにおける認知機能低下に対する薬物効果など、臨床の知見を基礎研究に結びつけ、臨床にフィードバックするトランスリレーショナル研究を推進しています。

災害時医療を平時の救命医療に近づけて、防ぎえた災害死をなくす

教授

本間 正人



1995年阪神淡路大震災では500名もの「防ぎえた災害死」が発生した。防ぎえた災害死とは、もし平時と同じレベルの救急医療が提供されていたならば救えたはずの命。被災地内の病院は、通信も途絶し、電気・水・水道・ガスいわゆるライフラインの障害により医療の継続が出来ませんでした。当時は日本赤十字社・日本医師会等から多くの医療救護班が駆けつけたが、どこに行けば良いのか、誰の指示に従えば良いかもわからず、診療の開始も救命の72時間を大きく過ぎてからでした。当日ヘリコプターで搬送された患者はたった1名でした。われわれは厚生労働省科学研究を通して、DMATの構築と制度化に取り組み、災害に強い病院のために業務継続計画（BCP）作成の手引き、自衛隊輸送機を用いた患者搬送等の指針やガイドライン、研修教材等を提供してきました。われわれの研究を通して、東日本大震災や熊本地震、能登半島地震での医療対応が確実に進歩しています。

健康的で豊かな生活を鳥取から世界へ

教授

永島 英樹



整形外科はよく美容整形と間違えられますが、整形外科では顔は治せません。骨、関節、神経（脊髄を含む）、筋・腱、靭帯、微小血管など運動器の疾患や外傷を扱う診療科です。骨折、脱臼、膝前十字靭帯損傷、椎間板ヘルニア、骨肉腫、骨粗鬆症、関節リウマチなどが代表的な疾患・外傷です。名称に外科と付いていますが、手術だけでなく運動器の内科的治療（保存療法）も行うので、大変忙しい診療科です。研究は、高齢化が進む山陰で高齢者整形外科疾患の病態と治療成績などを研究し、国際雑誌に報告しています。また、企業と共同で腰痛のメカニズムや膝関節エコー検査方法の改良、本学工学部と共同で軟骨保護などをテーマに行っています。最近では、損傷脊髄の再生を阻害しているグリア瘢痕の抑制に関する研究や、加齢に伴う変形性関節症の病態と考えられている内軟骨性骨化による関節軟骨の菲薄化を解明する研究を行っていて、新しい薬物療法に繋がればと期待しています。

患者さんの命と機能を守り新たな技術を社会へ還元する

教授

藤原 和典



耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野は、咽喉頭、耳、鼻、甲状腺を主に扱う診療科です。感染症や腫瘍の治療に加え、声、匂い、聴力、嚥下などの機能を回復させる治療も手掛けます。特に、低侵襲な外科治療に力をいれ、それぞれの領域で内視鏡手術を積極的に行っています。中でも咽喉頭癌の内視鏡手術やロボット手術では、全国でも中心的な施設として活動しています。超音波でのエラストグラフィや嚥下運動の解析などの臨床研究に加え、基礎研究では、頭頸部癌におけるスフィンゴ脂質の効果や腫瘍血管の解明について研究しています。さらに、医療機器開発も行っており、経口内視鏡挿入時の咽頭反射を少なくする「ギャグレスマウスピース」、声を失った方に発声を可能とするための手術器具、そして新たな嚥下障害検査機器などを開発し、社会に還元できる技術の開発にも取り組んでいます。

口腔の機能を維持する

教授

小谷 勇



口腔は、顔の下約1/3程のスペースを占める小さなものですが、その機能は咀嚼、嚥下、発音、呼吸と重要かつ複数の機能を有しています。その機能を失う疾患が我々の治療対象、研究対象となっており、現在、以下の研究に取り組んでいます。

【口唇裂・口蓋裂】口蓋裂術後に行う言語訓練時に使用する“鼻息鏡”で、評価が正確に行える新しい装置の開発に取り組んでいます。

【口腔癌】がん抑制遺伝子の一つであるmaspinと口腔癌との関連についての研究をしています。maspinは細胞内局在の評価により、予後予測因子となるのではないかと期待しています。

【新規骨再生法の開発】ヒト間葉系幹細胞の骨分化能に着目し、ゲノム編集技術により骨分化マーカーを可視化できるモニター細胞の作製に取り組んでおり、このモニター細胞を利用して新規骨再生法の開発を目指しています。

病気になっても、できるだけ口腔機能を維持できるように日々取り組んでいます。

皮膚科学を通じて社会に貢献する

教授

吉田 雄一



皮膚はその異常を自分で見つけることができる特殊な臓器です。生命予後に直接関わる疾患は比較的小さいですが、体表の異常がいかに人の心に影響を与えるのかを日々考えさせられます。一方、内臓の病気とは異なり、皮膚は組織の採取が容易であるため、近年様々な疾患の病態解明がすすんでいます。当教室では人口の超高齢化に伴い増加傾向にある皮膚がんや全身に皮膚腫瘍が多発する遺伝性の疾患（神経線維腫症1型）に対する多施設共同研究を積極的に行っています。皮膚科の対象疾患はそれ以外にもアレルギー性疾患、炎症性疾患、感染症、水疱症など多岐にわたりますが、病態を理解することで臨床力も飛躍的に向上します。患者さんの喜ぶ顔を見ることが医師も自身の存在意義を認識し、働く上での活力は高まり、幸せな気持ちになれます。皮膚科学を通じて、社会に貢献できる医師の育成に全力で取り組んでまいりますので、興味のある方はお気軽にご相談ください。

眼を究めるサイエンス、その先に見える未来

教授

宮崎 大



眼は私たちの身体の中でも最も小さな臓器のひとつですが、視覚は生活の質（Quality of Life）を大きく左右する、非常に重要な機能です。眼科は、この「視覚」を守る最前線に立つ診療科です。現代の眼科は、テクノロジーと強く結びついた新しい医療分野へと進化しています。特に近年、生成AIをはじめとするデジタル技術の発展により、診断・治療のあり方が大きく変わりつつあります。当教室では、全国の医療機関と連携し、感染症やアレルギー性眼疾患に対するAIによる画像診断技術や知識データベースの開発を進めており、医療現場での実用化を目指しています。一方で、私たちはサイエンスの本質を大切にしています。眼の病気を深く理解し、治療につなげるための基礎研究も重視しており、感染症やアレルギーに加え、加齢黄斑変性や緑内障といった疾患についても研究を進めています。さらに近年注目されている「エクソソーム」という細胞から分泌される微小な粒子にも着目し、リキッドバイオプシー技術を活用した新たな診断法の開発にも取り組んでいます。医療とサイエンス、そしてAIやデジタル技術。多様な分野が融合しながら発展していく今、これからの医療には、新しい価値を創造できる柔軟な発想と挑戦する姿勢が求められます。少しでも「面白そう」「挑戦してみたい」と思ったあなた。ぜひ、私たちと一緒に未来の医療をつくっていきましょう。

神経疾患のしくみを知り謎を解く

教授

花島 律子



脳神経内科は、末梢から中枢神経、筋肉さらに高次機能まで神経が関わる全ての疾患を扱う科です。神経疾患にはまだ発症機序が不明なものも多く、治療法がないものもあります。このような中で、私たちは生化学、神経生理学や神経病理学、疫学研究、動物実験など様々な手法で、神経疾患の発症機序や病態の解明に取り組み、早期診断法の確立や治療法の開発を目指しています。具体的には、以下の様な研究です。

- ・経頭蓋磁気刺激やプリズム順応などを用いた脳の可塑性や興奮性の神経疾患での変化の分析
- ・髄液・血清検体での特異的バイオマーカーの確立
- ・神経変性疾患の剖検脳でのタウ病変の分析など
- ・脳卒中の発症および再発の危険因子に関する検討や、転帰に関連する因子の検討
- ・地域健診での認知症疾患バイオマーカの検索（このほか、アイディア次第です）

20～30年前までは診断も困難で謎の難病だったものが、今では確定診断ができ病態も解明され治療が試みられているものもあります。是非、神経疾患の謎に取り組んでください。

トップナイフとしてすべてを患者さんのために

教授

黒崎 雅道



脳神経外科学分野の診療は、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、脊椎・脊髄疾患、中枢神経先天奇形疾患など多岐にわたります。当科は、脳血管内治療や脳腫瘍手術において中国四国地方でトップクラスの症例数、治療成績を誇っています。間脳下垂体腫瘍に関しては、低侵襲で高難度の内視鏡下経鼻的頭蓋底腫瘍摘出術を耳鼻咽喉科と合同で行い、内分泌代謝内科、小児科、神経放射線科などと症例の検討を重ねています。脳血管障害に関しても、救急科、脳神経内科等と他科多職種で連携をとり、脳神経血管内治療指導医を中心に的確な治療方針に基づいたチーム医療を行っており、鳥取県唯一の『地域においてコアとなるPSC（一次脳卒中センター）施設』に認定されています。研究面では、医学科ゲノム再生医学講座と共同で悪性脳腫瘍に対するワクシニアウイルスを用いたがんウイルス療法の研究をはじめており、工学部との医工連携による医療機器開発や臨床解剖教育研修センターにおける微小脳神経外科解剖研究などの臨床および基礎研究で実績を上げています。

こどものこころとからだの 発達に寄り添う

教授

前垣 義弘



脳神経小児科は、小児期に発症した神経疾患と子どもの発達に関する全てに対応しており、これらに該当する対象は子どもの10%を占めます。けいれんや意識障害に対する救急医療、難治性てんかんの評価と外科治療を含めた治療法の決定、神経難病の遺伝学的診断と治療を行っています。医療的ケア児の呼吸・循環・栄養などの全身管理もしています。また、発達障害の診断と治療、指導を行っています。さらに、障害児の家族支援と多機関連携による在宅支援も行っています。子どもの神経と発達に関するすべてに対応している診療科は少なく、全国から多くの小児科医が研修にきています。当科は、患者に寄り添える質の高い小児神経科医の育成を目指しています。

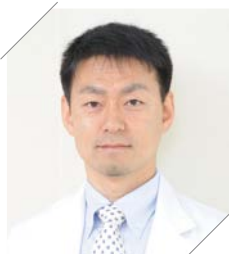
脳神経小児科の特徴

- ・全身を丁寧に診る
- ・患者と家族に寄り添う
- ・てんかんの包括的診断治療
- ・院内外が多職種と連携したチーム医療

精神医学の奥深さを知ろう

教授

岩田 正明



精神行動医学分野は、多様な精神の障害をもつ当事者やご家族の方々を対象として、診断、治療、社会復帰や復帰後の支援等の活動を行っています。こうした精神医療の活動の基礎には、人間の精神や行動およびそれらの病的状態に関わる幅広い科学的、心理社会的な知識が必要です。当分野では、統合失調症の認知機能障害、うつ病の認知の歪みに関する臨床研究やうつ病発症の分子メカニズムに関する基礎的研究を通じ、新しい治療法やリハビリテーションの開発につながる可能性のある知見を得てきました。しかし、科学的な努力だけでは十分とは言えず、当分野は、精神医療の本質的な役割である、当事者の苦痛に共感的に関与し続けることが出来る資質を磨くことにも力を入れています。精神医学はその困難さから、未知のことが多く、完成した分野ではありません。だからこそ、精神医学は、皆さんが一生をかけて取り組む価値のある奥深い診療・学問の分野といえます。

感染症に対峙し、克服する



新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの社会は多大な影響を受けました。本疾患の克服や、今後も人類を襲うであろう新興・再興感染症に対処していくためには、感染症診療に関する専門知識をもった医師の存在が不可欠です。臨床感染症学講座は、そのような人材を養成するために鳥取県からの寄附講座として誕生しました。私たちは、各種の感染症に対する診療を行いながら、院内外における伝搬防止のための感染制御方法、疫学情報の統合と分析などに統合的な知識をもつ感染症専門医の育成に努めています。また、感染症に対する新規検査技術、診断方法・治療方法の開発を行っています。私たちは、感染症内科医として、感染症のスペシャリストであると同時に、幅広い臓器を対象に診療を行うバランスのとれた内科医であることを目指しており、このことにより、医学と人類社会に貢献できるよう日々努力を重ねています。

科学的根拠に基づいた 安全・安心の薬物療法の推進



薬剤部では、患者さんへの安全で安心な薬物療法の提供を使命としております。薬剤師の質の向上が求められる昨今、課題抽出力と理論的な思考能力を身につけ、臨床現場でその力を発揮できるような人材育成に努めています。また、講座配属の医学科3年生や大学院医学系研究科の協力講座として大学院の学生を受け入れ、研究指導を通して次世代を担う医療人の育成を心がけております。研究面では、各診療科と連携しながら、薬物動態学および医療薬学的研究を進めています。現在、主に「薬毒物血中濃度測定を利用した薬物治療の個別適正化の推進」に取り組んでおり、こうした研究活動を通じてこれからの医療の発展に貢献したいと考えております。

神経疾患の病態解明を目指す

准教授

足立 正



アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症をはじめとする神経疾患は、今なお根本治療がなく多くの患者さんが苦しんでおられます。さらにこれらの病気は、生前の検査のみでは確定診断を得ることができません。当教室では、これらの病気でお亡くなりになった方の病理解剖を行い、最終診断を行っています。さらに全国の研究機関と協力し、病理解剖で得られた検体を用いた各疾患の遺伝学的、生化学的研究や生前の臨床情報と病理所見を対比し、確定診断につながるバイオマーカーの探索等を行っています。また、基礎医学研究で得られた知見をヒト脳組織で確かめることも進めています。教育面では、神経疾患に対する講義・実習を幅広い学生と医師に対して行っております。これらの地道な積み重ねが、いつの日か治療法につながる病態解明の一助となればと考えております。ぜひ、私たちと一緒に神経疾患の謎に挑んでみませんか。

まなび、ひろがり、つながっていく 地域医療と総合診療

教授

谷口 晋一



地域医療学講座は2010年に鳥取大学ではじめて設立され、医学部での地域医療に関する教育・診療・研究をおこなっています。地域医療とはCommunity-based Family Medicineと定義し、欧米の家庭医療学(family medicine)の考え方と日本独自の医療システムの両方を整合して学べるように工夫しています。地域医療はプライマリ・ケアの実践現場から学ぶことが不可欠なので、教育サテライト施設として日野病院(地域医療総合教育研修センター)、大山診療所(家庭医療教育ステーション)を準備しています。この2ヶ所で、地域医療学講座の教員が実際の診療を行いながら、臨床実習Ⅰ、Ⅱの医学生指導を行っています。卒業後は、総合診療専門医を育成するため「鳥取の総合診療医を育てるプログラム」を運営し、総合診療医の育成に努めています。地域医療学は新しい分野ですが、生物医学的視点だけでなく生物心理社会モデルを活用することで、患者の全体像をみる統合的な医学を目指しています。

医療DX(デジタル・トランスフォーメーション)の 時代

准教授

寺本 圭



医療情報部は、2002年から電子カルテシステムを稼働させ「医療DX」を推進してきました。また、各医療機関に蓄積された診療データを医療者同士で共有するための地域医療連携システム「おしどりネット」や、患者さん向けの診療案内アプリ「とりりんりん」といったITインフラを構築しています。この医療情報ITインフラは、質の高いリアルワールドデータを継続的に収集することを実現し、それらのデータを研究者が評価・分析することによって、新しいエビデンスの発見や人工知能の開発に役立ちます。新しい知見やシステムは、医師の診断材料となるだけでなく、遠隔地の患者さんへ、モバイル端末を通して生活習慣病の予防や、個々の患者さんの状態にあわせた専門的医療として提供されます。このような医療情報のデータ活用サイクルを進めるためには、医療と情報処理技術、社会制度の理解に加えて、患者さんや医療者の視点に立ったインターフェースの設計開発と、診療データを分析する医療者の知識と経験が重要となります。医療情報部では、リアルワールドデータの活用を目的として一緒に研究を進めていただける人材を医学・工学・社会学のバックボーンを問わず募集しています。



生命科学および基礎医学の 研究者育成に特化し 30年以上トップを走り続けるパイオニア学科

MESSAGE

生命科学科長 久郷 裕之
Hiroyuki Kugoh

生命科学科は、1990年医学の基礎知識を持つバイオサイエンティストを養成する学科として全国に先駆け医学部内に設置されました。本学科では、生命科学と医学に関連する基本的な生命現象から疾病のメカニズムなどの幅広い研究領域に加えて、最先端研究や技術を学べます。こうした取り組みを通して人類の幸福に貢献する人材の育成に力を入れています。本学科HP上にも記載されていますが、既に多く

の卒業生が生命科学の第一線を含む様々な分野で活躍されています。鳥取大学で生命科学の世界で夢を見つける、あるいは実現する一歩にしませんか？時代が大きく変貌する中でも皆さんの礎になりうる科学的思考や技術を修得されるような様々なアプローチ（講義・実践・セミナーなど）を活用して指導します。



基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部生命科学科では、その教育目的を踏まえ、学生が本学科の教育課程を修め、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力や特性を身につけたときに学士（生命科学）の学位を授与します。

1. 自然科学をはじめ一般的な教養に関する幅広い知識と、生命科学および基礎医学に関する深い知識の習得と理解、これら知識の獲得のための方法と技能を身につけている。
2. 生命科学の遂行に必要な基本技術とその原理の理解、解決すべき問題を自ら設定できる問題探索力、問題に適切な方法により解決に導く問題解決力を身につけている。
3. 国際的な広い視野を備えた柔軟かつ論理的な思考力、独創的な発想力を有している。
4. 生命科学における真理の探求や新しい技術の開発の重要性に対する深い理解、従来の常識や先入観に左右されない態度、他者と共同して研究を進めることができる協調性を有している。
5. 生命科学を学んだものとしての健全な倫理観と責任感を備えている。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部生命科学科は、卒業認定・学位授与の方針で示す能力や特性を学生が主体的に身につけることができるよう、次に掲げる方針のもとに体系的な教育課程を編成し実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 生命科学の専門知識とともに幅広い能力を持った職業人を養成するため、教養教育を受講する機会を広く提供し、人間力の構成要素がバランスよく身につくカリキュラムを展開します。
2. 全学共通科目では、自然科学をはじめ一般的な教養を学ぶとともに、医学・生命科学を支える基礎的な知識および技術の習得を図ります。
3. 専門科目では、幅広い医学知識、専門性の高い生命科学知識、生命科学に必要の基礎技術の習得および生命倫理の理解を図ります。
4. 論理的思考力、独創的な発想力、的確な表現力およびコミュニケーション能力を育成します。同時に、真理の探求や新しい技術の重要性に対する理解を促します。

(2) 教育方法

目標とする学修成果を達成できるように、1～3年次では、教育課程・教育内容に挙げた内容について、講義および実習を通して学修を推進します。最終年次における「生命科学科特別研究」では、所属する研究室においてきめ細やかな指導を行います。これらについて、一対一の対話型および参加型教育を行い能動的な学習を推進し、主体的な問題探索力、問題解決力の育成と修得を図ります。

(3) 学修成果の評価

1. 学部の定める成績評価基準に基づき、学修成果の達成度を、各年次における試験、レポート等を用い、厳格に評価します。および実習での能動的な探求の姿勢については、実習参加の積極性や協調性などについて厳格に評価します。さらに、学修成果の達成度を可視化することに努めます。
2. 最終年次における「生命科学科特別研究」は、学部の定める成績評価基準に基づき、日常の研究に取り組む姿勢、研究態度、そして卒業論文により、学修成果の到達度を評価します。
3. 学修成果をモニターして教育課程の効果を検証し、教育課程の編成に反映します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

医学部生命科学科では、生命倫理を尊重するとともに、基礎医学と最先端の生命科学を修得し、医学とその多様な関連領域の研究者や両者の橋渡し役を担う専門的職業人を目指す、次のような人を広く受け入れます。

1. 学修に必要な高等学校等までの理科（生物、物理、化学）の知識と基本的な語学力と国語力を備えた人
2. 現代の医学・生命科学及びその関連分野の動向・進展に関心があり、それらの知識・技術を学ぶとともに向上・発展させる研究活動に興味を持つことができる人
3. 真理探究の意欲を有し、創造的目標の達成にチャレンジでき、そして勉学・自己研鑽に努力をおしまない人
4. 協調性を備え、生命科学を通して国際的な広い視野と仕事への使命感を持って人類に役立つ喜びを感じる人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、創造性など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜及び学校推薦型選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

「生命科学」とは、生き物が生きている過程で起こる様々な事柄を、分子の動き、遺伝子の働き、細胞のふるまいなどから調べて、「いのち」の現象、その不思議さを科学的な視点で解き明かす学問です。その成果を医学、農学、工学、環境分野などに応用し、社会に貢献する学問でもあります。

1. 医学部にある生命科学科

本学科は、医学とその関連領域をつなぐ生命科学研究者の育成をめざして、平成2年に全国にさがけて設置されました。医師を養成する学科ではなく、生命現象の解明と、新しい時代の医療への貢献を両軸とする、4年制の学科です。

医学部にある学科の特色として、細胞や遺伝子などの生物学の知識に加えて医学関連の知識を学び、生命科学への理解をより深いものにしていきます。また、遺伝子操作技術や細胞解析などのバイオサイエンス技術を修得できます。さらに難病の疾患モデル動物の作製やiPS細胞を用いた再生医療など、最先端の生命科学研究への道が開かれています。

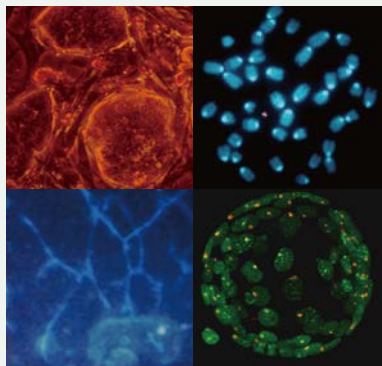
2. 充実した教育・研究環境

本学科は、医学科（基礎系・臨床系）および保健学科の講座、また鳥取大学研究推進機構との連携による充実した教育研究環境を持っています。隣接する染色体工学研究センターやとっとりバイオフロンティアでは、染色体工学を用いた先端的な研究や産学連携研究が行われています。さらに、2018年に設置された「とっとり創薬実証センター」では、染色体工学技術で作出した資材を用いて抗体医薬や疾患治療薬などの医薬品の創出を目指しています。本学科学生はこのような環境で教育を受け、また、研究を行うことができます。

3. 充実した大学院

—さらに専門的な知識を—

本学科から進学できる大学院として、本学医学系研究科の医学専攻〔博士前期課程（修士2年間）、博士後期課程（博士3年間）〕が設置されています。また、研究内容によって、同じ医学系研究科の「臨床心理学専攻（修士2年間）」や博士前期課程修了後に「医学専攻（博士4年間）」への進学も可能です。本学科の卒業生の多くが、専門的な知識を学ぶべく、大学院に進学しています。



カリキュラム

※1年次は鳥取キャンパス（鳥取市）で他学部との学生とともに学びます。
 ※1・2年次は下記の専門科目の他に、全学共通科目（教養科目、外国語科目等）を学びます。
 ※2・3年次には、生命科学科3講座6教室それぞれの講義・実習・セミナーがあります。
 ※講義の一部は、医学科・保健学科の教員により行われます。

1年	2年	3年	4年
人体の構造と機能	実験動物・倫理学	公衆衛生学	生命科学科特別研究(卒業研究)
栄養と代謝	基礎腫瘍学	人類遺伝学	
健康と生体情報	社会環境医学	心の病	
人間発達と健康論	組織学	老年医学	
生命科学概論Ⅰ	生理学	周産期医学	
免疫学	生化学	臨床検査学(検査機器論)	
	病気と微生物	がんのメカニズムと治療	
	病気と病理	内科学概論	
	くずりと作用	外科学概論	
	生命科学概論Ⅱ	遺伝子制御学	
	コミュニケーション法	分子生物学実習	
	生命科学実験演習	染色体医工学	
	分子生物学概論	細胞工学実習	
	システム発生生物学	神経科学実習	
	実験病理学概論	分子発生生物学	
	遺伝生物学	発生生物学実習	
	構造生物学・バイオインフォマティクス	免疫学実習	
	遺伝子治療学概論	実験腫瘍病理学	
	再生医療学概論	実験病理学実習	
	生体防御機構学	各分野によるセミナー	
	細胞工学	特別講義Ⅲ～Ⅵ	
	基礎神経科学	バイオインフォマティクス演習	※卒業研究は、生命科学科に加え、医学科、保健学科、染色体工学研究センター、研究推進機構などの幅広い分野の中から研究室を選択します。
	基礎発生生物学	キャリアデザイン入門	
	システム神経科学		
	特別講義Ⅰ～Ⅱ		

在学生の声

本学科では医学部に属しているという特徴を生かし、最先端の生命科学や基礎医学のみならず実際の臨床での課題などを学ぶことができます。1年生から2年生の間は、生命科学を中心として基礎医学や染色体医工学、神経科学、免疫学、分子生物学、実験病理学、発生生物学などの幅広い知識を学ぶことができます。3年生からは実習やセミナーが始まり、講義で得た知識を活用して実際の研究の一端に触れたり、最新の研究成果を学ぶことができます。

4年生からは各研究室に配属され、本格的に研究活動が始まります。本学科では充実した研究設備が整っており、研究に没頭することができます。3年生までは教科書で学ぶのに対して、4年生からは実践を通して世界でまだ誰も知らない、教科書のその先を自らの手で切り拓くことができます。

生命現象の謎を解き明かしたい方、病気の解明から治療に貢献したい方など、本学科は様々な方にとって最適な環境だと思います。受験生の皆さんもこの学科で学び、医学・生命科学の未来を切り拓くような研究者を目指しませんか。



小林 大晃 さん
鳥取大学大学院
医科学専攻修士課程2年(新潟県出身)

私は、医学的視点から生命科学を探究できる点に魅力を感じ入学しました。

1年次は湖山キャンパスで教養科目を履修しながら、他学部の学生と交流したり、Gfrenzで国際交流イベントを主催したりと、多様な価値観に触れる機会に恵まれました。2年次からは米子キャンパスで専門科目が始まり、講義や自主的な研究室訪問、多様なサークルの新歓を通して、先生方や先輩との距離が近くなり、研究をより身近に感じるようになりました。長期休暇には、シドニーへの語学留学や他大学での研究インターン、バリ島での日本語ボランティア、日本各地を巡るヒッチハイク旅など、学外でも積極的に学びの場を広げています。ALSなどの神経変性疾患に強い関心を持っており、病気のメカニズムを解明する研究者になるという目標が明確になりました。生命科学科の献身的な先生方や的確なアドバイスをくださる先輩、いつも慕ってくれる後輩、そして熱い目標をもった同期に囲まれながら、卒業後はアメリカの博士課程へ進学し、国際的な環境で最先端の研究に挑戦することを目指しています。

鳥取の自然豊かな環境で、自分と向き合いながら学べるこの場所は、目標を定め、それに邁進するのに最適です。受験生の皆さんも、自分の「なぜ?」を大切に、主体的に学びを楽しんでほしいです。



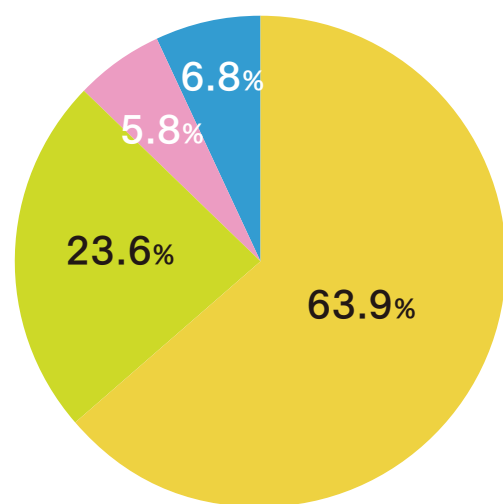
高橋 真衣 さん
生命科学科3年(愛媛県出身)

卒業生・修了生の進路

生命科学科の卒業生の8割以上は、本学あるいは他大学の大学院博士課程（修士課程）に進学します。また、卒業生・大学院修了生の多くは、大学・研究機関における研究職のほか、製薬・食品企業の研究開発職や公務員・病院・出版関連企業等に就いています。今後、社会のニーズに対応して再生医療・遺伝子医療や臨床研究等のコーディネーターなど生命科学の知識が必要とされる新たな職種への進路も広がります。就職活動は、専任のスタッフがサポートしています。



学部卒業生の進路・就職先



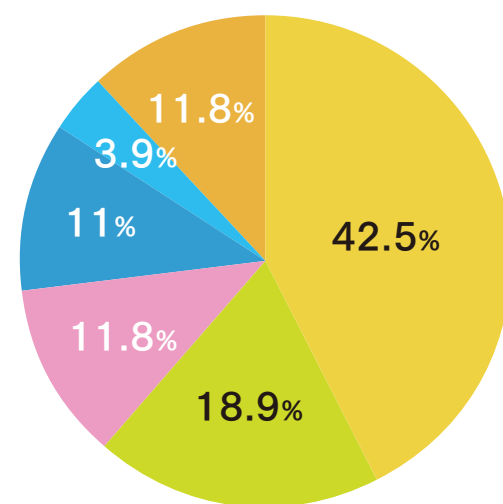
■ 本学大学院 ■ 他大学大学院 ■ 就職 ■ その他

（令和2～令和6年度）

主な進学先

鳥取大学大学院
大阪大学大学院
大阪公立大学大学院
東京大学大学院
名古屋大学大学院
筑波大学大学院
京都大学大学院
千葉大学大学院
神戸大学大学院
岡山大学大学院
広島大学大学院
奈良先端科学技術大学院

大学院修了生の就職先



■ 製薬・医療関係企業 ■ 医療関係 ■ 教育・研究機関
■ ヘルスケア・バイオ関係企業 ■ 食品関係企業 ■ その他

主な就職先

アステラス製薬
第一三共
協和キリン
エーザイ株式会社
塩野義製薬
大塚製薬
持田製薬
テルモ
旭化成
ユニ・チャーム株式会社
科学捜査研究所
新日本科学PPD

卒業生の声

私は、生命科学科で学部を過ごし、他大学大学院で博士課程を修了し、現在は米国イリノイ大学でテニュアトラック教員として研究に従事しています。入学当時は、医学研究を通して、効果的な治療を待つ難病患者さんに治療法を届けたいという希望を持っていましたが、実際に研究に触れてみると、社会貢献だけでなく生命の根幹を明らかにするという好奇心が強く刺激されました。細胞、組織の中は合理的に機能しているのに、そのメカニズムは明らかにされていないことが山ほどあります。自分の中の「なぜ?」「誰かの役に立ちたい」という思いに背中を

押され、研究に動んでいます。

現在は、腸内炎症疾患モデルマウスを使い、腸内細菌がどのように我々の体に影響を及ぼすかを研究しています。

米国イリノイ大学テニュアトラック教員
（生命科学科 13期生）

佐野 晃之 さん

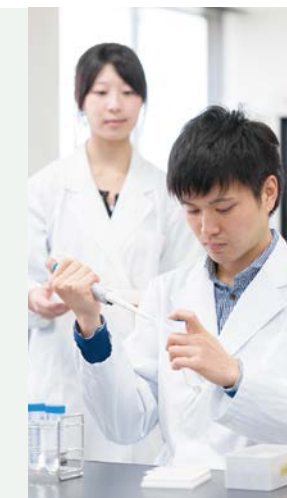


Q & A

医学科や既存の理工学部生物系学科とどこが違うのですか？ また、他大学の生命科学科との違いはどんなところですか？

最大の特徴は、医学部の中にある生命科学科だということです。基礎的な医学の講義を受けたり、医学科、保健学科との合同講義の機会もあるなど、理・工学部などの生命科学科に比べると、医療に役立てることをより意識した生命科学の教育・研究を指向しています。医学科、保健学科の講座と連携した卒業研究・大学院研究を行うことも可能です。生命科学科に隣接する研究推進機構、染色体工学研究センター、とっとりバイオフィロンティアなどの研究環境も充実しています。これは、本学科が設立からすでに30年あまりの実績を誇り、各センターとのしっかりとした連携があるからこそ出来ることです。

さまざまな業界で活躍する1,000名にのぼる卒業生のネットワークを持っていることも強みです。先輩達がさまざまな形で皆さんをサポートしてくれます。一学年が少人数のため、同級生、先輩後輩や教員との距離がとても近い学科です。



令和5年度の入試から 推薦入試が大きく変わりました！



出願期間：11月4日(火)～11月10日(月)

試験日：12月6日(土)

出願対象者：既卒生(令和6年度卒)も受験が可能に！

学科の個別ホームページでは「年中オープンキャンパス」を開催中です！
詳しい研究室紹介や在校生や卒業生のお話を見ることができます
年に2-3回、学科説明会をオンラインで開催しています！
先生や先輩に、進路や大学生活、入試など直接質問できます

生命科学科
ホームページ



<https://www.med.tottori-u.ac.jp/lifesciences/>

つなげたい、 病気の解明から治療に向けて！



教授 久郷 裕之



教授 香月 康宏

染色体には、ほとんどの生命現象に重要な働きをしているタンパク質を作るための設計情報(遺伝子)と構造や遺伝子の配置などを含め、生物が経験してきた進化の痕跡が埋め込まれています。一方、この染色体は、重要な遺伝子情報を安定に正確性を持って運ぶことを可能にした乗り物でもあります。

染色体医工学講座では、医学の基礎知識を持つバイオサイエンティストを養成する学科として全国に先駆け医学部内に設置された本学科の設立に伴い開講されて以来、染色体をつなげたり、切ったり、移したりする技術である「染色体工学技術」を独自に開発してきました。

私たちは、この染色体の特性を利用した独自の染色体工学技術の開発によって自然界にない細胞を作り出し、病気の解明から治療への応用を目指しています。

1.がん

新しいがん抑制遺伝子の働きを解き明かし、発がんメカニズムの理解と診断・治療へ応用する

2.老化

細胞の老化が何故起こるのか？不死化能を獲得する発がん機構の解明からその謎に迫る

3.疾患モデル動物

染色体ベクターを利用した病気のモデル動物を作製することで病態を解明し、治療薬を開発する

4. ヒト型モデル動物

染色体工学を利用して作製したヒトと同じような免疫反応を示す動物を利用して、ヒトの免疫機能を解明し、がんや感染症等に対する抗体医薬品やmRNA医薬品を開発する

5.細胞医薬品開発

染色体ベクターの特徴を生かして、安価で安全性の高いがんに対するヒトiPS細胞由来の免疫細胞療法を開発する

6.ゲノム合成

染色体の持つポテンシャルを利用して、遺伝子や遺伝子間の未知機能を明らかにしたり、新たな機能を付加した細胞の創製により、病気の治療に繋げる

このように私たちの研究室では、基礎生物・再生医療・創薬などの様々な幅広い分野にまたがり研究に取り組んでいます。本学独自の最先端染色体医工学研究技術を通して、あなたと一緒に挑戦してみませんか？



学生実習風景

細胞の世界を覗けば 生命の原理が見えてくる



教授

初沢 清隆

私たちは、時として様々な疾病に罹り悩まされますが、その多くが未だ原因究明に至っていない状況にあります。私たちは細胞から個体レベルでの基礎的な生体機能(生体防御、遺伝子の調節制御など)を解明することが、一見遠回りのようですが個々の病因を明らかにする上でとても重要と考え研究を進めています。具体的には、①マクロファージのように病原微生物と闘う食細胞に備わっている特殊な機能はどのように発揮されるのか？②DNAのメチル化などゲノム構造がどのように調節され遺伝子の働きに関わっているのか？これらの解明をテーマに掲げ、分子イメージング技術や遺伝子工学技術などを利用し、分子の細胞内ダイナミクスの可視化システムや遺伝子導入細胞を作製しています。好奇心と謙虚な姿勢で細胞の世界を覗き、内包された美しい生命の原理の一つひとつ拾い上げ理解することが、疾病の原因解明や治療法の開発へと還元されるよう日々取り組んでいます。

免疫は諸刃の剣



教授

常世 田 好司

私たちの身体は病原体の情報を記憶することができ、その記憶によって、同じ種類の病原体が再び侵入したときには、迅速に病原体を取り除くことができます。ワクチンを開発する上で、この記憶力を自在に高めることができれば、あらゆるワクチンの能力を高めることができるようになります。一方で、自己免疫疾患やアレルギー疾患のように、自己や無害のものを病原体と間違い記憶してしまう病気が存在します。この病気を完治させる上で、この記憶を喪失させることは、あらゆる自己免疫疾患やアレルギー疾患の完治に向けて、非常に有効であると考えられています。私たちの研究室は、免疫記憶の形成と維持のメカニズムを明らかにすることで、その記憶を制御する方法を見つけ出し、新しいワクチンの開発や自己免疫疾患・アレルギー疾患の完治方法の開発につなげていくことを目指しています。味方にも敵にもなる免疫の研究を一緒に進めていきましょう。

生き物が正確に 形をつくるしくみは何だろう？



私たちの体は、精巧な形と特有のサイズをもち、またさまざまな組織が組み合わさってできています。受精卵からこれらの組織が正確につくられるしくみ、つまり発生のしくみは、依然大きな謎です。一方、私たちヒトは、多くの組織を再生できません。ところが、両生類のイモリや魚類のゼブラフィッシュは、四肢(ヒレ)やレンズ、さらには脳や心臓までも再生します。このとき、失われる前と全く同じの形とサイズの組織が再びできます。すなわち、再生においても正確な形づくりが行われます。そのしくみも大きな謎なのです。私たちの研究室では、イペリアトゲイモリやゼブラフィッシュに注目し、遺伝子操作や遺伝子導入動物の作成、移植などの微細操作実験を駆使し、上記の発生と再生の謎の解明をめざしています。この謎が解ければ、私たちヒトでも多くの組織を大規模に(たとえば腕を丸ごと?)再生できる日が来るかもしれません。そんな壮大な夢を抱きながら、私たちは日々、研究に取り組んでいます。

使って育つ脳のしくみ



教授

畠 義郎

古来、数多くの哲学者、心理学者、脳科学者が「私とは何か?」「世界はどう認識されるのか?」など様々な心の謎に取り組んできましたが、まだまだわからないことは山ほどあります。もののしくみがわからないときに有効な手段の一つは、その成り立ちを調べることです。子供の脳はどうやって育つのか?実は、脳は時間がたてば育つというものではありません。正しく使ってはじめて育つのです。ものを見る脳のしくみが発達する時には、きちんと「見る」経験が必要です。幼児期に眼をふさぐと、その眼の情報を運ぶ神経は発達できません。社会的な行動も同じです。どんな状況でどんな行動を選ぶのか、そのような人柄に関わる脳の特徴も育ち方に影響されます。経験が、どのようにして脳の発達を制御するのか?その仕組みがわかれば、心の育ち方や、それにまつわる様々な問題の解決法もわかるに違いありません。そう思って日々研究を続けています。

がんを知る、がん挑む



教授

岡田 太

がんは、日本人の一生のうちで2人に1人が患い、その半数が治療で治ります。しかし、3人に1人はがんで命を落としています。また、その10人のうち9人は転移で不幸の転帰を辿っています。がんは治る病気になってきましたが、未だに人類の最期に伴う疾患です。私たちの研究室では、がんや転移がなぜ起きるのかの原因論を探索する研究を行っています。これらの原因を明らかにすることで予防や治療の方法論を開発して、臨床への応用を目指しています。進行中の研究課題は、①肝転移のドライバー遺伝子Amigo2による転移予測と予防法の開発。②核酸医薬による転移予防。③腫瘍内血管新生阻害による新規がん退縮法の開発。④炎症による発がんの化学予防。⑤発がんに占める活性イオウ分子種の意義などです。

あなたも鳥取大学医学部生命科学科でしか行うことのできない“がん研究”と一緒に始めてみませんか。

- 幼少期の脳の可塑性を成熟後に誘導する技術の開発
- 口腔扁平上皮がんにおける不死化抑制遺伝子の同定とその機能解析
- 再生医療応用を目指したHLA搭載人工染色体導入iPS細胞の作製
- ヒトがん細胞の悪性化進展に及ぼすAmigo2分子の新たな役割
- 上皮性HeLa細胞におけるtoll様受容体4の刺激依存的な局在化機構の解明
- 長寿命プラズマ細胞の維持に関わるインテグリンの役割
- 記憶ヘルパーT細胞形成を誘導する樹状細胞の同定
- 骨分化をモニターするレポーター細胞の作製
- イモリとマウスの心臓再生能力の違いを生み出す要因は何か?

個人の尊厳に基づいた看護実践能力と 幅広い分野で活躍する臨床検査技師の育成

MESSAGE

保健学科長 加藤 雅彦

Masahiko Kato

人の命と向き合うための温かい心と責任感を養う

鳥取大学医学部保健学科は、平成11年10月に設置され、看護学専攻と検査技術科学専攻で構成されています。1年次は鳥取市の湖山キャンパスで教養科目と一部の専門科目を学びつつ、他学部との学生との交流を通して豊かな人間性を育みます。2年次以降は米子キャンパスで専門科目を学び、医療専門職としての知識・技能を身につけるとともに、

臨地実習を通して人の命と向き合うための温かい心と責任感を養います。また、大学院教育にも力を入れており、働きながら大学院で学べる社会人大学院制度も整えています。教職員一同、未来の医療を担うべき看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、および教育・研究者を育てることを目標に全力で取り組んでいます。



保健学科看護学専攻 基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻では、その教育目標を踏まえ、学生が医学部保健学科看護学専攻の教育課程を修め所定の単位を修得して卒業要件を満たし、鳥取大学の学位授与の方針に加え、以下の能力や特性を身につけたときに学士（看護学）の学位を授与します。

1. 看護職者の役割と責務を理解し、豊かなコミュニケーション能力を身につけ、倫理的に行動することができる。
2. 看護の基礎となる人間と健康生活を理解し、人間・健康・環境・看護に関する専門的知識と技術の修得、さらに、あらゆる対象の健康生活のために科学的根拠に基づいて看護を実践する能力を有している。
3. 対象者の利益のために保健・医療・福祉をはじめ種々の関係者と連携・協働し、調整する能力を有している。
4. 看護学の発展のために、看護実践の中から課題を自立的に探求し、論理的・創造的に解決し続ける能力を有している。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻は、学位授与の方針を実現できるように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 鳥取大学のグランドデザインの柱である現代的教養と人間力を身につけるために文化・社会・自然に関する幅広い科目を編成します。
2. 全人的医療人の基盤として、こころ・身体・社会の構造と機能について学習し、さらに、看護学の視点から生活者の健康について学習できるカリキュラムを展開します。
3. あらゆる対象の健康生活を科学的根拠に基づき支援するために、看護の対象、看護実践の場、健康にかかわる課題、看護実践の方法について学習を充実します。
4. 看護の本質を追究し続ける姿勢を身につけるために、看護の論理的追究および実践的追究の方法に関する学習を充実します。

(2) 教育方法

1. 自ら学ぶ力を高め、学びを統合するために、対話型・参加型・実践型教育の展開に努めます。
2. 看護の対象となる人々が生活する地域・在宅・医療・福祉・教育施設等の多様な場において看護実践教育を行います。

(3) 学修成果の評価

1. 学部の定める成績評価基準に基づき、学修成果の達成度を、知識・技能・態度について、試験、レポート、評価表等により厳格に評価します。
2. 学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

医学部保健学科看護学専攻では、看護学の理論と技術を修得し、人間の尊厳を守り、地域特性に合わせた看護を実践できる看護職を志す、次のような人を広く受け入れます。

1. 健康に関わる様々な問題について、深く広い関心のある人
2. 看護学を学ぶために必要な基礎学力のある人
3. 相手の言葉に耳を傾け、相手の立場を思いやることができ、自らの確に表現する力のある人
4. 問題解決のために柔軟な発想と多面的・論理的な思考力を持ち、自分の考えを表現できる人
5. 自ら課題を見出し主体的、創造的に探究して自己の成長を目指す人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、創造性など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜のほか、学校推薦型選抜、社会人を対象とした選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

保健学科検査技術科学専攻 基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻では、鳥取大学の卒業認定・学位授与の方針に加え、次に掲げるように能力や特性を身につけたときに学士(保健学)の学位を授与します。

1. 幅広い視野から人間を理解し、倫理的に行動する態度と姿勢を有している。
2. 臨床検査学の高い専門的知識と技術を身につけている。
3. 医療人としてのコミュニケーション能力、思考力、判断力、協調性を有している。
4. 地域のみならず国際的な医学・医療の発展に貢献できる科学的探究能力を有している。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針を実現できるように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 幅広い知識と確かな実践力をもった人材を育成するために、バランスのとれた教養教育と専門教育を行います。また、自律的な生涯学習力を養成します。
2. 臨床検査技師に必要な科目を中心にして、専門科目を体系的に学べるよう教育課程を編成します。臨床検査技術の習得につながる実習科目を充実します。
3. 医療人として必要な医学の専門科目に加え、コミュニケーション能力を育成する科目を設置し、他者との違いを理解し、他者を思いやる心と倫理観を涵養します。
4. 大学附属病院を含む地域の医療施設で実習を行い、臨床現場での体験学習を充実させます。
5. 最先端のバイオサイエンスや医学・医療の実践を学べる教育課程を編成します。また、課題研究など国際的に通用する問題解決能力・創造的表現力を育成する科目を設置します。

(2) 教育方法

1. 目標とする学修成果を達成できるように、対話型、参加型教育を展開して能動的な学習を推進します。

(3) 学修成果の評価

1. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により学修成果の達成度を厳格に評価します。
2. 学修成果の可視化に努め、これを検証し、教育課程の編成に反映します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

医学部保健学科検査技術科学専攻では、生命倫理を尊重し、最先端のバイオサイエンスと生体・機能検査の技術をそなえた臨床検査技師を養成するために、次のような人を広く受け入れます。

1. 科学的な思考力、判断力、表現力があり、主体的に学ぶ意欲のある人
2. 医学・医療や生命医学を学ぶための基礎的な知識・技能のある人
3. 倫理観を備え、周囲の人と協調して行動できる人
4. 地域の医療・保健に加えて、国際的にも貢献したいと考えている人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、創造性など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜のほか、学校推薦型選抜、社会人を対象とした選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

MESSAGE

看護学専攻主任 鈴木 康江

Yasue Suzuki

看護学専攻では、保健師・看護師の国家試験受験資格を全員取得することができます。更に助産師の国家試験受験資格については、学内希望者の中から10名以内（実習可能施設の増減等により異なる）が取得することができます。そのほか養護教諭Ⅱ種も取得可能です。看護系の資格に強い大学です。本学では統合カリキュラムで学び、より多様な視点で看護を捉えることが可能になり実践的な看護を学ぶことができます。また本学学生実習では地域の住民の皆さんや医療機関等が大変協力的であり学習環境が整っております。山陰の穏やかな自然の中で医学部の3学科・4専攻（看護・検査・医学・生命）が同じキャンパスで将来医療を担う仲間達と共に学ぶことができます。本学では教育の中にDX（デジタルトランスフォーメーション；Digital Transformation）を積極的に取り入れております。温かな地域と最先端の技術の連携、人と技術、知と実践を融合し、新時代の医療・看護と一緒に学び、開拓していきましょう。

専攻の特色

1. バーチャルリアリティ（VR）体験学習

学生は、講義室に居ながらにして実際の臨床場面を体験したり、当事者目線で疑似体験を取り入れています。何度も繰り返し学習することができ、医療現場で必要とされる知識・技能・態度の習得を目指しています。



学生の声

VR認知症体験では、自分が体験することで、認知症の方の不安や怖い思いがわかり、看護者としてすべきことを深く考えるきっかけとなりました。

2. 附属病院での臨地実習

鳥取大学医学部附属病院の実習では、患者さんに寄り添いながら、その人らしさを支える看護の実践を学びます。



学生の声

実習指導者さんや教員から支援を受けながら、とても学ぶことが多い充実した学習をすることができます。

3. 地域の方と関わる看護活動

地域で暮らす人を支える看護活動として、地域住民の健康・生活課題に着眼し、予防的観点も含め、その人らしく生活しているように共に考え、支援していく看護実践を学びます。



学生の声

各地域で起こる課題を敏感に感じ取り、対応していくためには住民さんの声や生活をしっかりと把握することが基本です！



卒業後の進路

(主な就職先・進学先：令和3年～令和6年度)

国家試験合格率、就職内定率は、毎年高い水準を維持しています！
鳥取県内をはじめ、全国各地に就職しています！

関東

東京大学医学部附属病院
千葉大学医学部附属病院
国家公務員共済組合連合会
東京医科大学病院
日本赤十字社医療センター
神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター
地域医療機能推進機構JCHO相模野病院
東海大学医学部附属病院
順天堂大学医学部附属浦安病院
九十九里町職員（保健師）
横須賀共済病院
昭和大学病院
東京医科歯科大学病院

近畿

祐生会みどりが丘病院
国立病院機構大阪医療センター
関西医科大学附属病院
近畿大学病院
大阪急性期・総合医療センター
大阪公立大学医学部附属病院
大阪大学医学部附属病院
大阪医科大学附属病院
大阪医科大学附属病院
大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター
関西医科大学総合医療センター
大阪府立病院機構大阪国際がんセンター
市立東大阪医療センター
京都大学医学部附属病院
京丹後市職員（保健師）
三菱京都病院
加古川市民病院機構 加古川中央市民病院
神戸市民病院機構神戸市立医療センター中央市民病院
神戸大学医学部附属病院
公立豊岡病院組合立豊岡病院
済生会兵庫東病院
ツカザキ病院
医療法人愛心会 東宝塚さとう病院
加古川医療センター
加東市職員（保健師）
姫路聖マリア病院
兵庫県立こども病院
兵庫県立はりま姫路総合医療センター
神戸市職員（保健師）
神戸市民病院機構神戸市立西神戸医療センター
宝塚市立病院
北播磨総合医療センター
公立豊岡病院組合
奈良県立医科大学附属病院
聖フランシスコ会姫路聖マリア病院
兵庫県立丹波医療センター
兵庫県立西宮病院
協和会川西市立総合医療センター
兵庫県立尼崎総合医療センター
市立福知山市民病院
貝塚市職員（保健師）
社会医療法人愛仁会
国立循環器病研究センター
田府奥風会 医学研究所北野病院

中部

中部国際医療センター
静岡県立静岡がんセンター

山陰

山陰労災病院
鳥取県庁（保健師）
鳥取市立病院
鳥取大学医学部附属病院
同委会博愛病院
養和病院
鳥取県立中央病院
鳥取県立厚生病院
鳥取市役所（保健師）
鳥取赤十字病院
米子市職員（保健師）
国立病院機構鳥取医療センター
信生病院
鳥取県看護協会訪問看護ステーション
鳥取県済生会境港総合病院
鳥取県立総合療育センター
尾崎病院
鳥取大学医学部附属病院
松江赤十字病院
鳥取県職員（保健師）
鳥取県立中央病院
株式会社ウェルフェアサポート
米子保健所（保健師）
明倫・小鴨地域包括支援センター（保健師）
マザリー産科婦人科医院

四国

香川大学医学部附属病院

山陽・山口

大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院
岡山大学病院
川崎医科大学附属病院
国立病院機構岡山医療センター
松田病院
美作市職員（保健師）
岡山済生会総合病院
岡山市職員（保健師）
岡山市立市民病院
倉敷中央病院
訪問看護ステーションくろかみ
公益財団法人岡山市ふれあい公社（保健師）
国立病院機構東広島医療センター
広島大学病院
広島県立病院機構
中国中央病院
労働者健康安全機構中国労災病院
広島県厚生農業協同組合連合会 JA広島総合病院
山口大学医学部附属病院
山口県済生会下関総合病院

九州・沖縄

佐賀大学医学部附属病院
九州大学病院
鹿児島大学病院
地域医療機能推進機構九州病院
池友会福岡和白病院
米盛病院
琉球大学病院
輝栄会 福岡輝栄会病院

進学先

鳥取県立倉吉総合看護専門学校助産学科
鳥根大学大学院医学系研究科看護学専攻助産学コース
兵庫県立総合衛生学院
新見公立大学助産学専攻科
金沢大学養護教諭特別科
鳥根県立大学大学院看護学研究科

卒業生の声

私は救命救急センターで勤務しています。救命救急センターは主に外来・病棟業務に分かれており、救急外来では、軽症から重症の患者様が受診され診療科・年齢も様々です。そのため、迅速な判断力、病態・処置に関しての知識が必要となり緊張感のある現場です。そのような中で、私は患者様が安全に初療を行えることができるように日々努めています。また、病棟では、全身状態が不安定で集中治療が必要な患者様が入院されています。私は、いち早く患者の状態の変化に気づけるのは一番近くにいる看護師だと思っているので、患者様とのコミュニケーションを密に取り、少しの変化も見逃さないよう意識して勤務しています。様々な状況で突然疾病の発症・増悪をされる患者様が多いため、救急看護として身体面だけでなく、心理的ケアも大切にしながら患者様と向き合っていきたいと思います。



勤務先：鳥取大学医学部附属病院 救命救急センター

千賀 真弥 さん
（保健学科 看護学専攻21期生）

カリキュラム

1年	2年		3年		4年
人体の構造と機能Ⅰ	心の病	地域・在宅看護学	保健医療福祉行政論Ⅱ	精神看護学実習	災害支援・ボランティア
人体の構造と機能Ⅱ	病気と病理	公衆衛生看護学Ⅱ	人類遺伝学	地域・在宅看護学実習	医療コミュニケーション
人間発達と健康論	病気と微生物	公衆衛生看護学Ⅲ	公衆衛生看護学Ⅳ	公衆衛生看護学実習	包括的支援統合演習
栄養と代謝	疾病論Ⅰ	健康障害と看護	健康学習と看護	助産診断・技術学Ⅰ	クリティカルケア看護学実習
コミュニケーション法	疾病論Ⅱ	成育支援と看護	尊厳のある死と看護	助産診断・技術学Ⅱ	包括的支援統合実習
人体の構造と機能Ⅲ	くすりと作用	地域での暮らしと看護	療養看護実践過程演習	助産診断・技術学演習Ⅰ	看護学研究法Ⅰ
基礎看護学	保健医療福祉行政論Ⅰ	メンタルヘルスと看護	公衆衛生看護実践過程演習	助産業務管理論	看護学研究法Ⅱ
公衆衛生看護学Ⅰ	疫学	生涯発達看護実践過程演習	クリティカルケア看護実践過程演習		看護倫理
看護実践過程基盤演習	国際保健医療論	生活援助論演習Ⅱ	地域生活看護実践過程演習		病の体験と医療
生活援助論演習Ⅰ	周産期医学	ヘルスプロモーション実習	生活援助論演習Ⅲ		特別講義Ⅱ
健康生活支援実習	老年医学	看護実践過程基盤実習：個人	生活援助論演習Ⅳ		特別講義Ⅲ
研究成果活用法	がんのメカニズムと治療	看護実践過程基盤実習：地域	治療援助論演習Ⅰ		家族看護論
特別講義Ⅰ	母性看護学	リプロダクティブヘルスケア論	治療援助論演習Ⅱ		助産診断・技術学演習Ⅱ
	小児看護学	助産学概論	母性家族看護学実習		助産診断・技術学演習Ⅲ
	成人看護学	基礎助産学	小児家族看護学実習		助産業務管理実習
	老年看護学		成人看護学実習		助産学実習
	精神看護学		老年看護学実習		包括的地域助産学実習

在学生の声

1年次は湖山キャンパスで主に教養科目を学びます。自分の興味のある分野を深く学ぶことができ、多くの知識を得ることができました。後期では週に2日米子キャンパスでの講義があり、附属病院や学外施設での実習を行います。実習ではグループワークが多く、人と関わる機会や発表する場面を経験し、看護に対する知識を得ることができます。特に印象に残ったことは後期の実習です。実習では患者さんとお話する機会が多く、病気を抱える人の苦しみや生きがいをお聞きすることができたことはとても貴重な時間だったと思います。2年次はさらに多くの患者さんに関わり、医療知識を増やしていきたいと考えています。



岡本 真利亜 さん

保健学科 看護学専攻2年
（佐賀県出身）

1年次は湖山キャンパスで他学部生と一緒に教養科目と基礎看護学を中心に学びました。2年次からは米子キャンパスで専門的な学習が始まりました。病棟実習では初めて患者さんを受け持ち、仲間や先生と話し合いを重ね、看護とは何かを考え、大きく成長することができました。専門的な科目は、難しく感じるときも多々ありますが、先生方や同じ学科の先輩などが手厚く指導して下さるため、頑張ることができています。また、部活動やサークル活動も盛んで、他学科の人とたくさん出会えがあり、楽しい経験をする事ができています。3年次は実践的な学習が増えていきますが、仲間と一緒に励まし合いながら、頑張っていきたいです！



古川 ひなた さん

保健学科 看護学専攻3年
（佐賀県出身）

1年次は湖山キャンパスで教養科目を中心に学習し、2年次から米子キャンパスで各領域の看護の知識を身に付けました。また初めての病棟実習があり、患者さんの心情や取り巻く環境について学びました。3年次では、今まで培った知識を基に患者さんにとってより良い看護について思考・計画・実施・評価の能力を養いました。臨地実習では、日々治療に対し前向きに変化していく患者さんを目の当たりにし、学生自身も変化し成長することができたと思います。4年次では実習だけでなく就活、看護研究、国試勉強も加わり、さらにスキルアップのできる年になると考えています。仲間と共に手を取り合いながら、看護師としての能力を磨いていきたいです。



済藤 睦夏 さん

保健学科 看護学専攻4年
（兵庫県出身）

MESSAGE

検査技術科学専攻主任 臼井 真一
Shinichi Usui

日々進歩する医療や科学において、臨床検査学は重要性を増しています。本専攻では、全人的医療に求められる人間性、最新の知識と技術、科学的素養の三本柱からなる教育カリキュラムにより、医療や科学に貢献する臨床検査技師の育成を目指しています。大学での学びは、臨床検査技師の国家資格の取得だけを目標とするものではありません。倫理観、思いやり、コミュニケーション力などを身につけて、一人の人間として成長することが重要です。また、医療の発展に貢献するためには、研究・開発能力が必要です。リサーチ・マインドを育むために、大学院進学という道が用意されています。将来の夢に向かって進む皆さんを、我々は全力で応援します。



実習の様子

検体
検査学
実習

血液、尿など生体試料中には、蛋白質、酵素、脂質など様々な成分が含まれています。それぞれの成分の特徴や働きを理解し、分析技術を習得します。

人体
組織学
実習

組織学では、人体の構造を細胞レベルで学びます。人体の各臓器から作成した組織標本を顕微鏡下で観察し、正常な微細構造について学びます。

病理組織
細胞学
実習

検体処理、標本作製および染色技術の習得と、正しい標本観察を目的に学びます。

採血
実習

採血も臨床検査技師の大切な仕事です。安全な採血を行えるように、シミュレーターや模擬患者さんでしっかりと練習し、知識と技術を十分に習得します。

超音波
検査
実習

超音波検査は、体内の臓器を画像化して調べる検査です。診断装置に関する知識はもちろん、解剖学の知識も必要であり、熟練が必要な検査です。

医用工学
実習

電気回路、電圧測定など医用機器を取り扱う際に必要な基本的工学知識と技術の習得を目的に学びます。

取得可能資格 臨床検査技師

カリキュラム

※1年次は鳥取キャンパス（鳥取市）で他学部との学生とともに学びます。
※1～3年次は下記の専門科目の他に、全学共通科目（教養科目、外国語科目等）を学びます。
※2年次以降は米子キャンパス（米子市）で専門基礎科目、専門科目を学びます。
医学部附属病院を中心として総合的な実習の体制がとられています。
※医学科・生命科学科との密接な連携のもとで教育・研究を行います。

1年	2年		3年		4年
人体の構造と機能	心の病	人体組織学	人類遺伝学	病原体検査学実習	予防検査学
健康と生体情報	病気と病理	人体組織学実習	老年医学	免疫検査学	医療コミュニケーション
栄養と代謝	病気と微生物	生体情報検査学	がんのメカニズムと治療	輸血・移植検査学	血液診断学
人間発達と健康論	くすりと作用	生体情報検査学実習	医療データ解析管理学	輸血・移植検査学実習	画像診断学
	疾病論Ⅰ	医用工学	公衆衛生学	病態生体情報検査学	臨床実習
	疾病論Ⅱ	医用工学実習	医療安全管理学	病態生体情報検査学実習	課題研究（卒業研究）
	細胞と情報伝達	遺伝子検査学	医療安全管理学実習	生体検査の臨床応用	
	生命維持と免疫	遺伝子検査学実習	検査総合管理学	臨床病理学概論	
	生物と環境	検査機器論	関係法規	病原寄生虫学演習	
	コミュニケーション法	検査学概論	病理組織細胞学	生命工学概論	
	周産期医学	病理検査学	病理組織細胞学実習		
	国際保健医療論	病理検査学実習	病態血液学		
	保健福祉行政論	検体検査学	病態血液学実習		
	分析検査学	検体検査学実習	臨床化学検査学		
	分析検査学実習	病原体検査学Ⅰ	臨床化学・免疫検査学実習		
	情報科学概論	基礎免疫輸血学	病原体検査学Ⅱ		

卒業後の進路

(主な就職先・進学先：令和3年度～令和6年度)

国家試験合格率、就職内定率は毎年高い水準を維持しています。
卒業生の多くが出身地で就職しています。

北海道・東北

第一岸本臨床検査センター

中部

市立砺波総合病院
八尾総合病院
聖隷福祉事業団
岡崎市民病院
愛生会総合上飯田第一病院

山陰

鳥取県保健事業団
鳥取県立中央病院
鳥取市立病院
鳥取赤十字病院
鳥取医療生活協同組合
藤井政雄記念病院
野島病院
済生会境港総合病院
山陰労災病院
本田医院
ミオ・ファティリティ・クリニック
鳥取大学医学部附属病院
日野病院組合日野病院
西伯病院
中国労働衛生協会 米子検診所
安来第一病院
松江市立病院
松江赤十字病院
平成記念病院
松江生協病院
島根県立中央病院
松江記念病院
島根大学医学部付属病院
大田市立病院
出雲市立総合医療センター
島根県病院局
島根県職員

近畿

神戸市民病院機構
西宮回生病院
渡邊高記念会
西宮渡辺病院
西脇市立西脇病院
神戸百年記念病院
公立八鹿病院
公立豊岡病院組合
姫路市職員
赤穂市民病院
兵庫県立病院
兵庫県職員
京都第二赤十字病院
大津市民病院
長浜赤十字病院
大阪回生病院
大阪回生病院睡眠医療センター
大阪府結核予防会
大阪府済生会野江病院
大阪市立総合医療センター
JCHO星ヶ丘医療センター
済生会中津病院
りんくう総合医療センター
医誠会国際総合病院
宝生会PL病院
和歌山医療センター
和歌山県立医科大学附属病院
三重大学医学部附属病院

四国

香川県職員
愛媛県職員

九州

九州大学病院
小倉記念病院
長崎大学病院

山陽・山口

岡山西大寺病院
岡山赤十字病院
岡山中央病院
心臓病センター 構原病院
川崎医科大学附属病院
しげい病院
倉敷中央病院
水島中央病院
水島協同病院
岡山二人クリニック
津山第一病院
日本赤十字社 中四国ブロック血液センター
広島記念病院
広島市立広島市民病院
土谷総合病院
JA広島総合病院
国立病院機構 中四国グループ
脳神経センター大田記念病院
福山臨床検査センター
中国労働衛生協会
広島市医師会臨床検査センター
JA尾道総合病院
広島県職員
光市立光総合病院

進学先

鳥取大学大学院
岡山大学大学院
神戸大学大学院
京都大学大学院
大阪大学大学院
奈良先端科学技術大学院大学
東北大学大学院
札幌医科大学大学院

卒業生の声



私は現在、滋賀県の病院で臨床検査技師として働いており、病理検査に携わっています。病理検査では主に組織診断、細胞診、病理解剖の3つの仕事を行っています。医療の現場は日進月歩であり、病理検査においても例外ではなく、近年だとがん治療としてのコンパニオン診断やがん遺伝子パネル検査において、新しいものが次々と保険適用となっています。現場で働いているとそのような新しい検査にも対応していく必要があるため、日々勉強の毎日で、忙しくも充実した生活を送っています。また、今後は検査の質を向上させるためにも、病理学関連の専門資格取得にむけて自己研鑽に努めていきたいと思っています。

勤務先：長浜赤十字病院
神谷 哲太郎 さん
(保健学科 検査技術科学専攻16期生)

在学生の声

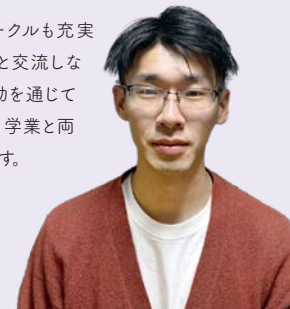
三宅 真央 さん
保健学科 検査技術科学専攻3年
(岡山県出身)

1年次は鳥取キャンパスで教養科目や医療従事者になるために必要な医学の基礎を学び、2年次からは米子キャンパスでより本格的な専門科目を学んでいます。米子キャンパスでは、講義と実習がセットになっており、講義で学んだことをすぐに実習で実践するため、理解を深めることができています。専門科目は覚えることも多いですが、先生方のサポートも手厚く、実習でわからないことがあった際には優しくアドバイスをしてくださるため、楽しく勉強に励めています。また、部活動やサークル活動を行うことで、部活動も勉強もお互いに高めあうことのできる素敵な先輩や同期に出会うことができ、とても充実した毎日を送っています。これからも必要な知識を身につけることはもちろんのこと、患者さんや他の医療職の方から頼りにされる臨床検査技師になるために精進していきたいと思っています。

1年次は鳥取キャンパスで一般教養を学び、2年次以降は米子キャンパスで専門科目を履修しました。学年が上がるごとに専門性が増し大変になりますが、学生同士で超音波検査や呼吸機能検査などの実技を行うため、知識だけでなく実践的な技術も身につきます。実習を通じて学びが深まるため、とてもやりがいを感じます。

この大学で学べて良かったと感じるのは、先生方の存在です。授業での質問がしやすく、実習では丁寧に指導していただき、学生を大切にしてくれていると実感しています。先生方のサポートのおかげで、安心して学ぶことができます。

また、医学部ならではの部活やサークルも充実しており、他学部との学生や先輩・後輩と交流しながら楽しい時間を過ごせます。課外活動を通じて視野が広がり、人間関係も深まるため、学業と両立しながら成長できる環境が整っています。

榎本 拓也 さん
保健学科 検査技術科学専攻4年
(大阪府出身)

看護の基礎と未来をつくる
—実践と探求のまなび舎

教授

宮本 まゆみ



基礎看護学は、看護に触れる最初の学びの場です。看護職を目指すうえで欠かせない知識と技術の土台を築くとともに、「相手を知ろうとする気持ち」を大切にしながら、対象を深く理解する力や、科学的に考える視点を養います。講義では理論的な学びを深め、演習では患者・看護師の両役を体験することで、実践的な技術と洞察力を磨きます。また、仲間とのディスカッションを通じて、多角的な視点や柔軟な思考力を高めていきます。当講座では、こうした日々の積み重ねを通じて、「思いやり」と「科学的思考」の両方を兼ね備えた、実践力のある看護職の育成を目指しています。

研究では、看護師がエコー（超音波検査）を活用し、患者さんの状態を客観的に把握することで、質の高いケアへとつなげる取り組みを行っています。さらに、プロフェッショナリズムの発達やコミュニケーション力の向上、看護英語教育、死生学や医療哲学など、多様なテーマに取り組んでいます。

その人らしさを支える看護実践
能力を育成する教育と研究

教授

片岡 英幸



成人・老人看護学講座では、地域に根ざした看護師を育成するため、実践的な能力を身につけ、臨床現場で必要とされる専門的な知識・技術を総合的に学びます。臨床現場での豊富な実践経験を持ち、研究者としての専門的な知識を持つ教員が、学生一人ひとりに丁寧なきめ細やかな指導を行い、専門性の高い知識や技能を修得するための支援を行っています。成人から高齢者の幅広い年齢層を対象に、「その人らしさ」を支える看護とは何かを考えながら学修します。

当講座では、実践的思考力を育成し看護実践能力を高めるために、体験すること、体験をリフレクションすることを大切にしています。さらに、VR体験教育にも積極的に取り組んでいます。実際の臨床現場で体験する機会の少ない事例に対して体験プログラムを活用しています。人と関わる体験からの学びとDX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した体験を融合して実践的なスキルや知識を身につけることができる環境を整え教育を行っています。

神経幹細胞について

教授

森 徹自



皮膚や肝臓などは少し傷がついても修復され、機能も回復します。一方、脳梗塞や外傷などで脳が傷ついて神経細胞が死ぬと、機能回復は非常に困難です。それは、基本的に大人の脳では新しい神経細胞は新たに産生されないためです。しかし、ヒトを含む大人の哺乳類の脳の限られた部位にも神経幹細胞と呼ばれる未熟な細胞が存在し、正常な状態でも新しい神経細胞が産生されることが示されています。大人の神経細胞は、胎生期に多数存在する神経幹細胞の一部が生き残ったものと考えられていますが、なぜ一部の部位に大人になっても神経幹細胞が存在するのか、分かっていません。また、習慣的に体を動かしたり、新しいことにチャレンジしたりすると、新しい神経細胞が増えやすいこともわかっていますが、なぜなのか未だに不明です。このような問題が分かれば、脳を修復、再生することに繋がると考え、研究を行っています。

医療・創薬における
ビッグデータ解析とAI技術開発

教授

岩田 浩明



ビッグデータ科学は、情報技術を活用して、あらゆる分野において爆発的に増加するビッグデータから知識や新たな価値を生み出すことが期待されています。医療ビッグデータには、患者の診療記録、臨床データ、生体情報、遺伝子データ、医療イメージなどが含まれます。また、創薬ビッグデータには、薬物の物性や薬効、毒性などの医薬品関連データ、およびゲノムやタンパク質などの生体分子データなども含まれます。私は、これらのビッグデータを活用し、医療や創薬の分野で革新的なアプローチを追求しています。臨床データや生体情報に基づいた予防医療や治療の最適化に貢献し、新たな研究領域を開拓することで、医療現場に革新をもたらす技術開発を行っています。私の研究は、ビッグデータの力を最大限に引き出し、医療と創薬の未来を切り拓くことを目指しています。

次世代に繋げる専門職：助産師
新たな命・こども・女性を支援する

教授

鈴木 康江



本学では学部で助産師養成の教育・研究・社会的貢献をしています。助産師は女性や家族に寄り添い生涯にわたる女性の健康を支える医療専門職です。少子化が進む中、支援を必要としている女性は増える傾向にあります。赤ちゃんが授からない、予期しない・望まない妊娠、不安な妊娠生活、育児負担・困難感、産後の鬱、思春期・更年期・老年期の性の課題など、抱える問題は沢山あります。これらの解決をめざし、日々、教育・研究に取り組んでいます。現在、助産学分野では思春期の青少年たちへのピアカウンセリング支援、全ての女性や赤ちゃんが出産前から切れ目なく助産師によるケアを受けることができる社会を目指した助産師出向支援活動、臨床助産師が常に最新の知識・技術を学ぶことができる教育活動などの社会支援活動もしています。将来を担う子ども達、産み育む母親・女性のための、次世代へと命と健康を繋げる医療専門職になりませんか。

予防から療養・看取りまで、地域
の人々の健康と暮らしを支える

教授

松浦 治代



当講座は、主に公衆衛生看護学、地域・在宅看護学、精神看護学を担当しています。本学では保健師教育を必修として、予防や健康づくり支援から、地域でのリハビリテーション、療養生活の支援等についての教育をしています。また関係性を中心としたケアを学生と共に深めていきたいと思っています。看護職の活動の場は広く、医療機関だけではなくありません。ケアの対象となる人や人を取り巻く状況が複雑化・多様化しているなか、私たちは、行政や訪問看護ステーションなど様々な場で、一人一人を大切に看護職として働くことの楽しさ、魅力を伝え、キャリアのどこかで従事してもらえるように、学修支援をしています。

また研究活動としては、「地域住民が主体的に自分らしく暮らしているための支援」、「新卒者や若手訪問看護師の育成支援」、「メンタルヘルスにかかわる課題を持つ人々へのサポート」、「異文化看護理解とその基礎実践能力の習得」などをテーマに取り組んでいます。

睡眠障害と心疾患

教授

加藤 雅彦



日本人は世界で一番睡眠を犠牲にしている国民です。睡眠時間を削ってでも勉強や仕事・家事をすることが美德とされています。私たちの研究室では様々な睡眠障害が心疾患に及ぼす影響を研究しています。心疾患（心不全、高血圧）患者さんやその他生活習慣病・肥満患者さんの睡眠を終夜ポリソムノグラフィーで評価し、各種睡眠指標と臨床的背景との関連性を調べています。また、高齢化が進むわが国では「心不全パンデミック」といって、入退院を繰り返す心不全患者さんが急増しています。心不全患者さんは夜間睡眠中に無呼吸などの睡眠呼吸障害を呈します。これらの患者さんへの適切な持続陽圧呼吸療法や睡眠衛生指導を提供できるよう、その病態生理について心臓超音波装置を用いて研究しています。心不全は多面的な疾患であり様々なphenotypeが存在します。その一つとして睡眠障害に関連した心不全への予防・診断・治療に関する適切な提案ができるよう研究に励んでいます。

新しい脂質検査の開発を
目指して

教授

白井 真一



皆さん、コレステロールと聞くとどのようなイメージを思い浮かべますか。卵、不健康、肥満…。血中コレステロールの増加は血管を詰まらせる原因の一つと考えられており、動脈硬化や冠動脈疾患などのリスク因子になっているため、健康に悪いイメージを持つ人が多いと思います。しかし、身体にとっては不可欠であり、生体膜成分やホルモンの原料などとして重要な役割を担っています。コレステロールは水に溶けないため、血中では蛋白質との複合体であるリポ蛋白質として運搬されています。リポ蛋白質の異常は運動不足や食生活の乱れにより生じやすく、糖尿病、肥満、脂肪肝、メタボリックシンドロームなどで高頻度に認められます。リポ蛋白質には様々な種類があることが知られており、健康診断などではHDL-コレステロールやLDL-コレステロールなどの検査があります。しかし、どのリポ蛋白質を臨床検査で測定すべきなのかは実はよくわかっていません。私たちは新しいリポ蛋白質分析法の開発に取り組み、より有用な臨床検査の確立を目指して日々研究を行っています。



4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

- | | | | | | | | | | | | |
|---|--------------|---------------------|---------------------|---------------------------|-------|--------|----------------------|------|--------------------------------|---|--|
| 前期授業開始
全学合同入学式
(鳥取市)
大学入門ゼミ
(医学科・生命科学科
・保健学科1年生) | 慰霊祭
(医学科) | 鳥取大学開学記念日
(6月1日) | 前期定期試験
オープンキャンパス | 夏季休業
西日本医科学生
総合体育大会 | 動物慰霊祭 | 後期授業開始 | 錦祭(学園祭)
オープンキャンパス | 冬季休業 | 後期定期試験
臨床実習生認定式
(医学科4年生) | 国家試験壮行会
(医学科・保健学科)
国家試験
(医学科・保健学科)
春季休業 | 医学部卒業式・謝恩会
進級生
オリエンテーション
(生命科学科・
保健学科新2年生) |
|---|--------------|---------------------|---------------------|---------------------------|-------|--------|----------------------|------|--------------------------------|---|--|

勉学だけでなく、
クラブ活動やサークル、アルバイトなど、
うまく両立しながら楽しい日々を送っています♪

鳥取大学イメージキャラクター とりん



学生生活サポート

保健管理センター、学生支援センター

身体に異常を感じたり、慢性疾患のある人、ケガをした人、「勉強に身が入らない」「大学生活になじめない」など、こころの悩みを持っている人も気軽に相談できます。

大学生協 食堂・ショップ

【食堂】学生の健康的な食生活を応援しています。安全な食材を使用し、利用しやすい価格の栄養バランスのとれたメニューを提供しています。

【ショップ】文具や医学書・各種教材やお弁当・飲料・生活用品などを取り揃えています。共済の給付申請受付やパソコンのサポートも行っています。

食 堂 OPEN / 8:00 CLOSE / 19:30
ショップ OPEN / 8:20 CLOSE / 18:00

※通常期(夏休み・春休み以外)の営業時間です。
土日祝日はお休みです。



就職支援室

キャリア相談員を配置して履歴書の書き方、自己分析のやり方、面接対策など相談を受け付けています。また、身近な就職担当教員に相談することもできます。

医学図書館

医学書等約15万冊の図書その他、電子ブック、電子ジャーナル、学術文献データベースなど、インターネットでアクセスできるデジタル資料も充実しています。



OPEN / 8:40 CLOSE / 22:00 (授業期間、試験期間の平日)

- 1F ブラウジングコーナー 雑誌、新聞、就活コーナー等があり、個人ブース(防音ブース)2台を設置しています。
- 2F 閲覧室・パソコンルーム 学習・研究に役立つ専門書が充実しており、個人用閲覧席も多数用意しています。
- 3F グループ学習室 複数名での利用が可能で、ウェブ上からも予約ができます。

課外活動

体育系



弓道部/競技スキー部/剣道部/ゴルフ部/硬式テニス部/サーフィン部/サイクリング部/サッカー部/柔道部/準硬式野球部/ソフトテニス部/女子バスケットボール部/女子バレーボール部/女子フットサル部/水泳部/漕艇部/ダンス部/卓球部/男子バスケットボール部/男子バレーボール部/男子フットサル部/バドミントン部/ラグビー部/陸上競技部/駅伝部/空手道部/富木流合気道同好会

文化系



アカベラサークル/アトリエ自由ノート(美術部系)/学生 ACLS(救命救急サークル)/カクテル部/華道部/ギターマンドリン部/キャリアラウンジ:SEED/ボランティアサークルnekote/軽音楽部/国際保健友の会ハクナマタ/茶道部/サブカルチャー研究会/室内管弦楽団/写真部/JAZZ研究会/しゅわっち(手話サークル)/将棋部/スプラウト(混声合唱団)/大山家族(小児糖尿病患者支援活動)/地域医療研究部/熱帯医学研究会/パッチアダムスクラブ(小児科病棟交流活動)/peer in heart(中高生への性教育)/献血推進サークル コハクチョウ/競技かるたサークル/書道同好会/Well-being研究会(いまここ)



鳥取大学医学部附属病院は、県内唯一の特定機能病院として高度先進医療を安全に提供するとともに医学の発展、医療人の育成に努めています。39診療科、697の病床数を有しており、約2,000人のスタッフ一人一人の能力を最大限に発揮できる組織づくりを通じ、地域医療への貢献に取り組んでいます。

基本理念

地域と歩む高度医療の実践

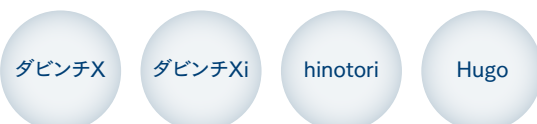
1. 地域へ高度医療を提供する

2010年8月、手術支援ロボット「ダビンチ」を導入したことをきっかけに、翌年2月に「低侵襲外科センター」を開設しました。2022年には国産ロボット「hinotori」を、2023年には「Hugo」を導入し、現在では3機種4台の手術支援ロボットを備えるに至りました。ここでは多診療科・多職種のスタッフが連携し、患者さんにとってより負担の少ない手術を提供しています。2025年3月現在、手術実績は6診療科合わせて約3,500例にのぼり、全国的に見ても優れた成果をあげています。

また、今後はロボット手術の提供のほか、人材育成や医療機器開発など更なる発展を目指しています。



4台の手術支援ロボットが稼働



これまでのロボット手術実績

- ・「hinotori」による肺切除術(2025年/中四国初)
- ・「ダビンチ」による心臓大動脈弁置換術(2022年/国内初)
- ・「ダビンチ」による副腎摘出術(2020年/国内初)
- ・「ダビンチ」による膵切除術(2020年/中四国地方初)
- ・「ダビンチ」による僧帽弁形成術(2019年/中国地方初)

2. 「最後の砦」として地域医療を守る

2018年3月から当院を基地病院として、鳥取県ドクターヘリ事業が開始されました。県内では当院でのみ運航しており、鳥取県全域に加え、島根県東部・隠岐地域、兵庫県北西部などへの出動も行っています。

また、医師・看護師が同乗するドクターカーも運用しています。救急現場へいち早くかけつけ、その場で応急処置を行えるため、救命率の向上や後遺症の軽減が期待できます。

2022年4月には、鳥取県より県内で初めて「高度救命救急センター」の指定を受け、これまで以上に迅速で高度な救急医療を提供し「最後の砦」として地域医療を守っています。



3. 多職種で治療に挑む「チーム医療」の実践

当院では患者さん一人ひとりに対し、適切な治療を効率的に行うために、診療科や部門の枠組みを超えたチーム医療に取り組んでいます。それぞれが自主的にチームを結成し、診療科や職種の垣根を越えて患者さんの治療はもちろん、院内で起こる様々な課題に対応しています。

活動中のチーム(一例)

- ・ラビッドレスポンスシステム対応(RRS)チーム
院内各所で患者さんの状態が急変した際、迅速にかけつけ救命するため編成されました。
- ・心不全チーム
循環器分野のエキスパートらで結成され、難易度の高い治療にあたっています。
- ・転倒・転落予防対策チーム
入院中の安全な療養を整えるため、転倒・転落の分析や再発防止、啓発に取り組んでいます。



4. 働きやすい職場づくり

すべての職員にとって働きやすい職場を目指して、様々な支援策を実施しています。子育て中の職員が安心してキャリアを継続できるよう、院内に保育所と病児保育施設を設置しており、保育所は夜間勤務にも対応しています。

また、「ワークライフバランス支援センター」では、キャリアアップのための語学支援や、公認心理師によるメンタルヘルスサポート、家事支援など様々な面から職員の仕事と家庭の両立をサポートしています。また、デジタルツールを活用した業務効率化を進め、タスク負担の軽減にも取り組んでいます。これにより、職員一人ひとりが安心して働ける環境を整え、質の高い医療サービスを提供する基盤を構築しています。



入試情報

Admission information

2026年度 募集人員

学科・専攻	入学定員	募集人員				
		前期日程	後期日程	学校推薦型選抜Ⅱ	社会人	私費外国人留学生
医学科	80*	60	—	20	—	若干人
生命科学科	40	30	5	5		
保健学科	看護学専攻	80	45	30		
	検査技術科学専攻	40	22	13	若干人	

※医学部医学科では、前期日程で「地域枠（募集人員18人（鳥取県枠11人、兵庫県枠2人、鳥根県枠5人）」及び学校推薦型選抜Ⅱで緊急医師確保対策に基づく「特別養成枠（募集人員6人）」を継続申請予定です。予定であり、変更があり得ますので、学生募集要項及びホームページで必ず確認してください。

2026年度 試験内容

学科・専攻		学力検査等の 区分	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等		
			教科	科目名等	教科	科目名等	
医学科		前期日程	国語 地歴 公民 数学	国語(必須) 「地総、地探」、「歴総、日探」、「歴総、世探」、 「地総、歴総、公」、「公、倫」、「公、政・経」 } から1 「数Ⅰ、数A」(必須) 「数Ⅱ、数B、数C」(必須) 物、化、生から2 英、独、仏から1	数学 理科	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物 } から2	
			理科 外国語 情報	情報Ⅰ(必須) [6教科8科目]	外国語 その他	英語 面接	
		学校推薦型選抜Ⅱ	情報	情報Ⅰ(必須) [6教科8科目]	その他	面接	
生命科学科		前期日程	国語 地歴 公民 数学	国語(必須) 「地総、地探」、「歴総、日探」、「歴総、世探」、 「地総、歴総、公」、「公、倫」、「公、政・経」 } から1 「数Ⅰ、数A」(必須) 「数Ⅱ、数B、数C」(必須) 物、化、生から2 英、独、仏から1	数学 理科	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物 } から2	
			理科 外国語 情報	情報Ⅰ(必須) [6教科8科目]	外国語 その他	英語 面接	
		後期日程	情報	情報Ⅰ(必須) [6教科8科目]	その他	面接	
看護学専攻		前期日程	国語 地歴 公民	国語(必須) 「地総、地探」、「歴総、日探」、「歴総、世探」、 「地総、歴総、公」、「公、倫」、「公、政・経」 } から1	数学 外国語 その他	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C } 1教科 英語 } 選択※ 面接	
			数学 理科	「数Ⅰ、数A」、「数Ⅱ、数B、数C」から1 「物基、化基、生基、地学基」、物、化、生から1 英、独、仏から1	その他	面接	
		学校推薦型選抜Ⅱ	外国語 情報	情報Ⅰ(必須) [6教科6科目]	その他	小論文 面接	
保健学科	検査技術科学専攻		前期日程	国語 地歴 公民 数学	国語(必須) 「地総、地探」、「歴総、日探」、「歴総、世探」、 「地総、歴総、公」、「公、倫」、「公、政・経」 } から1 「数Ⅰ、数A」(必須) 「数Ⅱ、数B、数C」(必須) 物、化、生から2 英、独、仏から1	数学 外国語	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C } 1教科 英語 } 選択※ 面接
				理科 外国語 情報	情報Ⅰ(必須) [6教科8科目]	その他	面接
			学校推薦型選抜Ⅱ	情報	情報Ⅰ(必須) [6教科8科目]	その他	小論文 面接

※個別学力検査の数学及び外国語は、両教科の受験が可能です。数学及び外国語の両教科を受験した場合は、高得点の教科の成績を用います。

2026年度 鳥取大学医学部入学者選抜試験日程一覧

大学入学 共通テスト (試験日)		試験日	合格発表
		※2月26日(木)は医学科のみ	
1月17日(土) 1月18日(日)	一般選抜〔前期日程〕	2月25日(水) 2月26日(木)*	3月7日(土)
	一般選抜〔後期日程〕 (生命科学科・保健学科)	3月12日(木)	3月20日(金)
	学校推薦型選抜Ⅱ	12月6日(土)	2月10日(火)
	社会人選抜(保健学科)		
	私費外国人留学生選抜	2月25日(水)	3月7日(土)

詳細はこちらから

令和8年度入学者選抜
概要、鳥取大学ホーム
ページ入学試験情報をご
確認ください。



ホームページアドレス

<http://www.admissions.adm.tottori-u.ac.jp/>

アクセス

Access

バス 高速バス利用の場合

東京	10時間 夜行	米子 JR米子駅前 バスターミナル
京都	4時間20分	
大阪	3時間40分	
広島	3時間30分	
福岡	7時間50分 夜行	

鉄道 鉄道利用の場合

東京	3時間20分 JR新幹線のぞみ	岡山	2時間10分 JR特急やくも	米子 JR米子駅
新大阪	50分 JR新幹線のぞみ			
広島	40分 JR新幹線のぞみ			
博多	1時間50分 JR新幹線のぞみ			

航空機 航空機利用の場合

東京	1時間15分 全日空	米子 米子鬼太郎空港
----	---------------	---------------

自動車 自家用車利用の場合

- 大阪から 約3時間30分
中国自動車道 落合JCTから米子自動車道経由 米子ICから米子バイパス経由
- 岡山から 約2時間
中国自動車道 落合JCTから米子自動車道経由 米子ICから米子バイパス経由
- 松江から 約30分
国道9号経由

米子鬼太郎空港 ← 羽田空港



米子キャンパス

〒683-8503 鳥取県米子市西町86

米子駅から

- ・徒歩で約15分
- ・タクシーで約3分
- ・米子市循環バス利用で約8分
- ※米子駅から大学前までは日の丸バス利用で約4分

米子鬼太郎空港から

- ・タクシーで約20分
(米子鬼太郎空港→JR米子駅(連絡バス約30分))
- ※空港連絡バスをご利用の場合は、市役所前で下車後、徒歩で約10分

